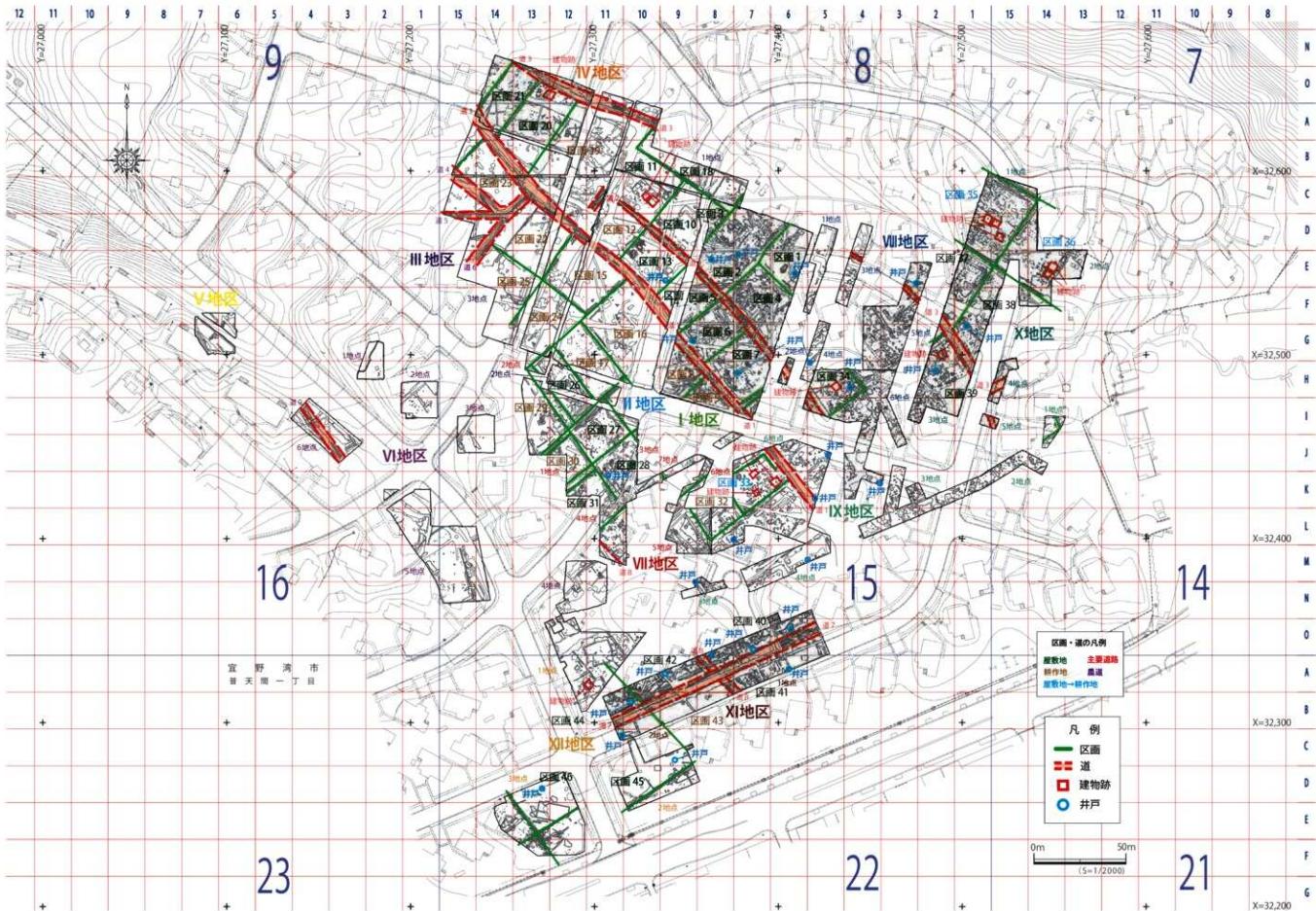


第8図 調査区（I～XII地区）全体図3 ゲスク時代の遺構



第9図 調査区（I～XII地区）全体図4 近世～近代の遺構

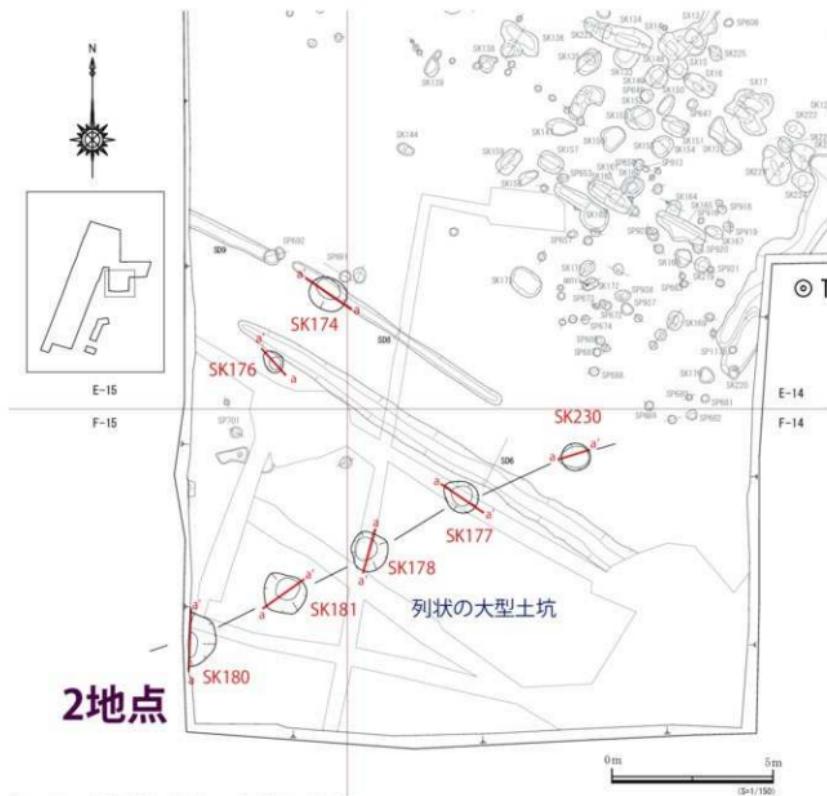
第3節 繩文時代

第1項 遺構

縄文時代の遺構は、X地区において地山（マージ）を深く掘り込んだ大型土坑が10基確認されている。同様な土坑はこれまでの瑞慶覧病院地区の調査で確認されており、深いもので2m以上掘り込まれたものもあり、多くは岩盤まで達する。これらの遺構の埋土は、炭粒や焼土粒を含む暗褐色砂質シルトを呈する。X地区2地点14-E14・15～F14・15グリッドにおいて、SK174、SK176、SK177、SK178、SK180、SK181、SK230が確認された（第10図）。この中で、SK177、SK178、SK180、SK181、SK230は、北東一南西方向に列状に並ぶ状況で検出されている（列状の大型土坑）。この列状の土坑より北のSK174およびSK176についても、概ね並行する位置にあることから、列状に並ぶ可能性がある。

また3地点15-F1・G1・G2グリッドではSK280、SK308、SK334が検出されている（第16図）。X地区全体でみると、2地点と3地点の大型土坑は北東一南西方向に並ぶような位置関係となっている（第12図）。

以下、各大型土坑について記述する。



第10図 縄文時代の遺構1（X地区2地点）

X地区2地点の大型土坑

列状の大型土坑 (SK177、SK178、SK180、SK181、SK230)

X地区2地点14-E15~F15グリッドにおいて、北東~南西方向(90度式:北65度東)に大型土坑がSK230からSK177、SK178、SK181、SK180の順で、列状に並ぶ状況で検出されている。その間隔は、概ね1.5~2.5mで、ほぼ等間隔となっている。検出された大型土坑は幅0.8~1.6m、深さは1.3から1.5mで、殆どが地山を岩盤まで掘り込むものである。2地点における大型土坑からの縄文土器の出土はSK230からの1点のみであり、遺物が出土していない遺構が多いが、これまでの類例から当該期の遺構として扱う。

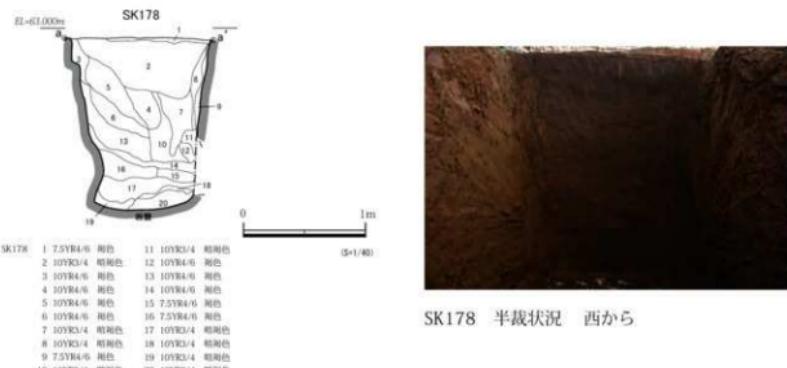
SK177

規模は開口部で幅113cm、底部で幅75cm、深さ144cmで、岩盤近くまで掘りこむ。形状は底面から直上に立ち上がる。埋土は暗褐色土が主体である。遺物は磨石が出土。中央部は埋設管の溝による搅乱を受けている。



SK178

規模は開口部幅114cm、深さ139cmで岩盤まで達する。形状は底面で若干オーバーハングして立ち上がる。埋土は暗褐色土が主体で下部ではマージブロックの堆積土と互層となる。遺物は出土していない。中央部は埋設管の溝があり、搅乱を受けている。



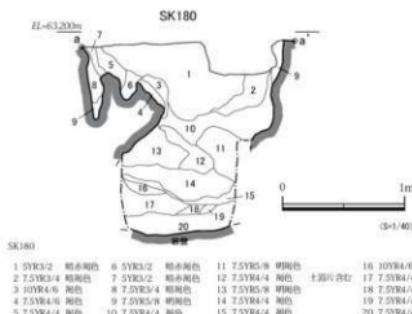
第11図 縄文時代の遺構2 (X地区2地点)



第12図 繩文時代の遺構3 全体図（X地区）

SK180

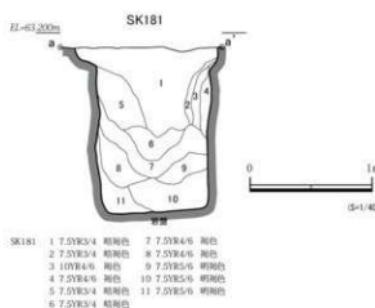
規模は開口部で幅164cm、深さ156cmで岩盤まで達する。形状は、底面でフラスコ状にオーバーハンギし、地表下50cmで急角度に外反する。埋土は暗褐色土が主体である。遺物は石材（ニービ）が出土。



SK180 半裁状況 東から

SK181

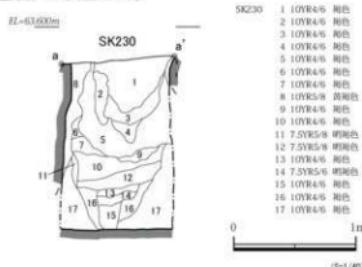
規模は開口部で幅120cm、底部で幅83cm、深さ135cmで岩盤まで掘りこむ。形状は長方形形状を呈する。埋土は暗褐色土が主体である。遺物は出土していない。北側で擾乱溝の擾乱を受けている。



SK181 半裁状況 南から

SK230

規模は開口部で幅82cm、深さ142cmで、岩盤近くまで達する。形状は底面でフラスコ状にオーバーハンギし、地表下20cmで緩やかに立ち上がる。埋土は暗褐色土が主体である。遺物は土器片と石材（緑色岩）が出土した。

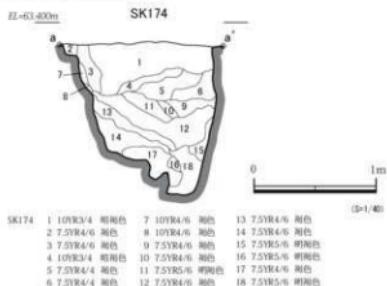


SK230 半裁状況 南から

第13図 繩文時代の遺構4（X地区2地点）

SK174

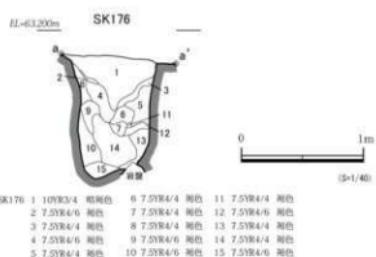
規模は開口部で幅123cm、底部で幅80cm、深さ124cmで地山（マージ）を掘りこむ。形状は縦長状で底面は北西側で段を有し凹む。埋土は暗褐色土が主体である。遺物は出土していない。近世～近代のSD 8に切られる。



SK174 半裁状況 北から

SK176

規模は開口部で幅77cm、底部で幅46cm、深さ101cmで岩盤まで掘りこむ。形状は縦長状を呈している。埋土は暗褐色土が主体である。遺物は出土していない。近世～近代のSD 6に切られる。



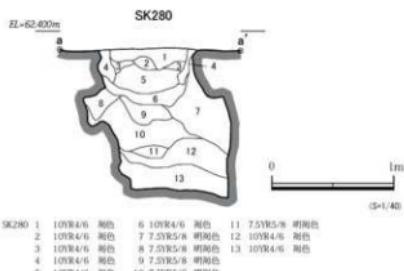
SK176 半裁状況 北東から

X地区3地点の大型土坑

3地点では、大型土坑は点在して分布する。SK308から繩文時代後期～晩期の土器が出土している。

SK280

規模は開口部で幅80cm、底部で幅80cm、深さ115cmで、岩盤近くまで掘りこむ。形状は縦長状である。埋土は暗褐色土が主体となる。遺物はイノシシの歯が出土。

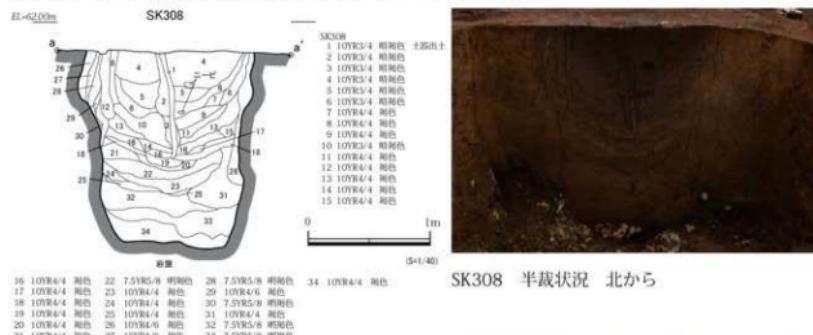


SK280 半裁状況 東から

第14図 繩文時代の遺構5（X地区2・3地点）

SK308

規模は開口部で幅 139cm、底部で幅 84cm、深さ 161cm で、岩盤まで掘りこむ。形状は縦長状である。埋土は暗褐色土が主体で下部ではマージブロックの堆積土と互層となる。遺物は室川式（第 17 図 1）と宇佐浜式（第 17 図 3）の土器口縁部片や石材（ニービ）が出土している。



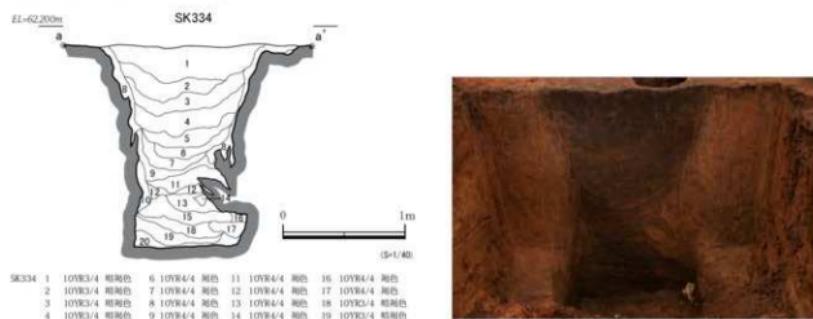
SK308 土器出土状況 北から



同左 拡大

SK334

規模は開口部で幅 160cm、底部で幅 90cm、深さ 163cm で、岩盤まで掘りこむ。形状は底面でプラスコ状にオーバーハンジし、地表下 110cm で緩やかに外反する。埋土は暗褐色土が主体である。遺物は土器片や焼土が出土している。



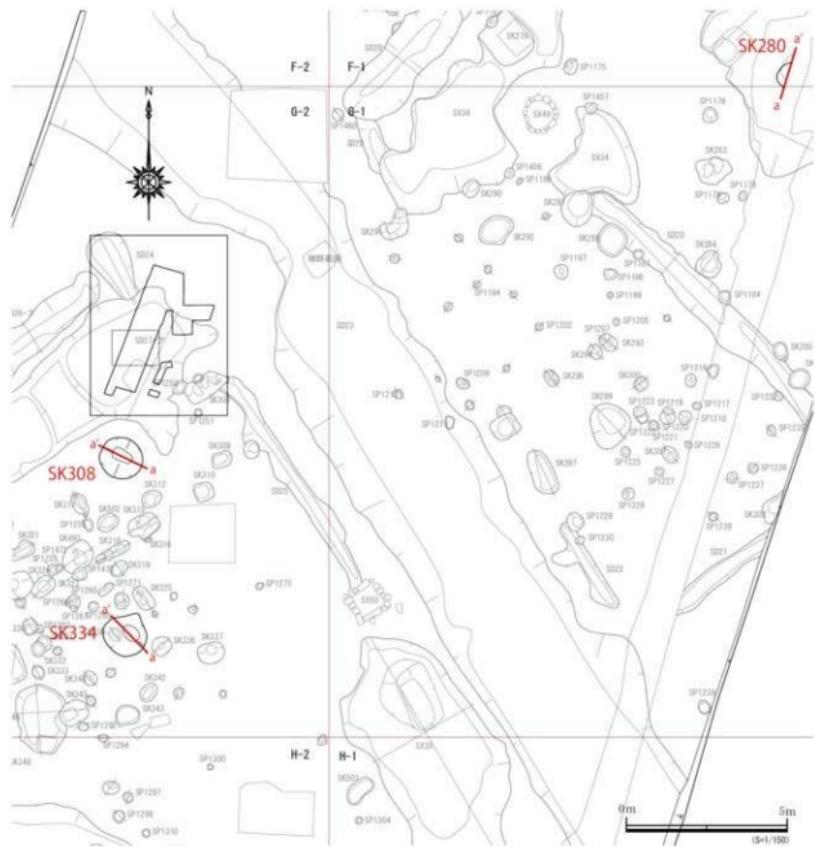
第 15 図 繩文時代の遺構 6 (X 地区 3 地点)



X地区2地点 土坑列 東から



X地区3地点 作業状況 北から



第16図 繩文時代の遺構7（X地区3地点）

第2項 遺物

縄文時代の遺構からは、土器、石器を中心にして34点が出土している（第1表）。土器は、縄文時代後期～晩期のものが確認されている。グスク時代の遺構や包含層（Ⅲ層）、近世～近代の遺構からも縄文時代の遺物が出土している。この中で、残りの良い19点を図化し報告する。遺物の縮尺は50%とする。以下に、遺物の分類とその概要について述べ、個々の詳細は遺物観察表（第2表）に記載する。

①土器

土器は、縄文時代後・晩期相当の室川式土器、宇座浜式土器、仲原式土器が出土している。また、縄文時代の上坑であるSK308の埋土からは、室川式（1）と宇座浜式（3）が出土している。この他は、グスク時代や近世～近代の遺構、若しくは遺物包含層からの出土である。

室川式土器（1） 口唇部はナデによって平坦となり、剥離しているが逆L字状に短く張り出していたと考えられる。器壁はやや厚手で、胎土は砂粒を多く含んだ明赤褐色を呈する。前述したように、SK308の埋土中から宇座浜式土器と出土している。

宇座浜式土器（2・3・4・5・6） 口唇部に粘土を張り付けて断面三角形～玉縁状に肥厚させている。胎土は、砂質もしくは砂泥質のものがあり、橙色若しくは褐色系の色調を呈する。前述のSK308から出土している他は、グスク時代や近世～近代の遺構若しくは、遺物包含層からの出土である。

仲原式土器（7・8） 脊部に弧状の突帯が貼り付けられている。胎土は宇座浜式土器の胎土に近く、砂質もしくは砂泥質で橙色もしくは褐色系の色調を呈する。グスク時代の遺構若しくは、包含層からの出土で、縄文時代の遺構に伴う出土状況は確認されていない。

底部（9・10）は底面から立ち上がる部分で、形態は不明である。

②石器・石核

石斧や敲石・磨石、凹み石、チャート製の石核が確認されている。

石斧（11・12・13・14・15・16） 縄文時代相当期の遺物と考えられ、全面を研磨したもの（11）、側面の調整痕が残り刃部を中心に研磨したもの（15）などがある。刃部の先端部が潰れていることから、使用中の破損や研ぎ直しができなくなった段階で廃棄若しくは、敲き石などに転用（13・14）した製品と考えられる。全てグスク時代以降の遺構埋土若しくは、包含層からの出土である。

敲石・磨石（17）・凹み石（18） 石器の平坦面や長軸方向、石材の角に叩打痕が残る。（17）については、叩打痕だけでなく、側面に磨面が確認できる。また、（17）はグスク時代の建物跡24号の柱穴SP65で滑石製石鍋の破片と出土していることから、グスク時代の遺物である可能性もあるが、グスク時代のビットからは縄文時代相当期の土器の底部（9）も出土していることから、縄文時代相当期の遺物として扱った。

石核（19） 石材はチャートである。近世の溝跡SD13からの出土だが、チャート製の利器を製作するための石核と考えられたことから、縄文時代相当期の遺物として報告を行う。また、当該遺跡から出土しているチャートの剥片の中には、当該石核と色調が異なるものが含まれていることから、色調の異なる複数のチャートが存在していたことが想定される。

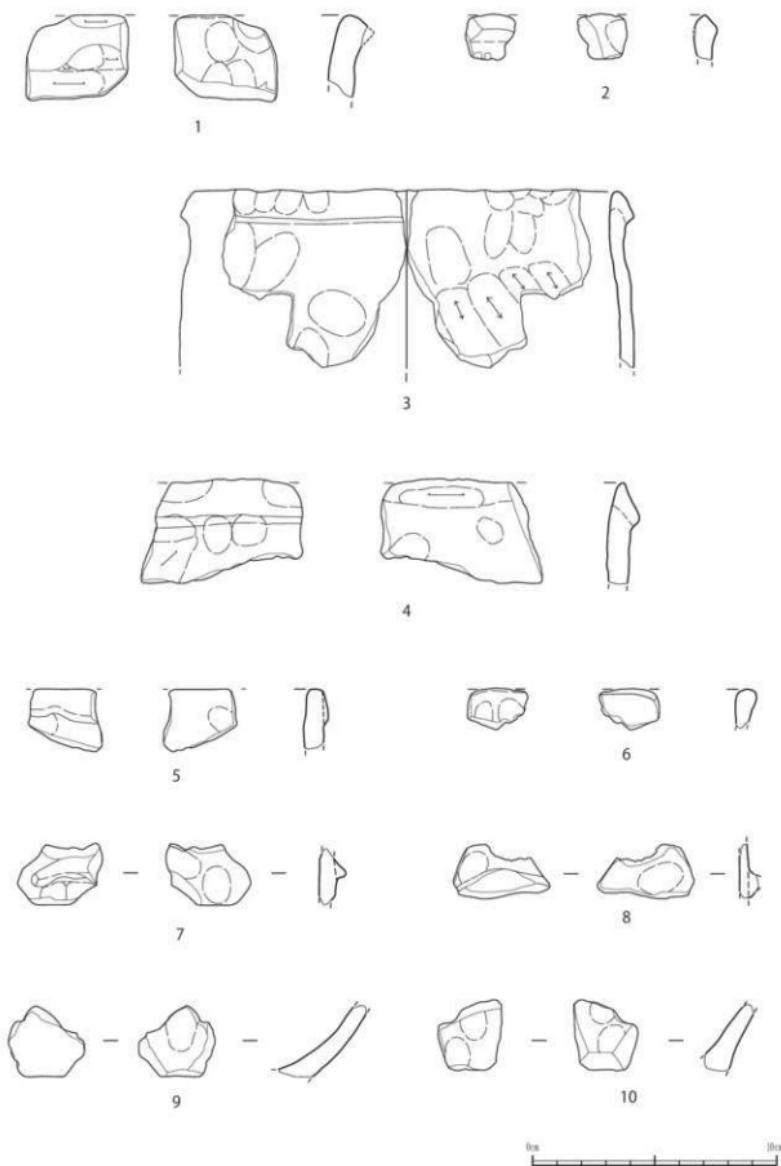
同時期の沖縄諸島若しくは奄美群島の遺跡で石核が報告されている遺跡は管見の限りだと徳之島の塔原遺跡（天城町教育委員会 1999）や奄美大島のウフタ遺跡（龍郷町教育委員会 2002）、朝仁天川遺跡（名瀬市教育委員会 1984）、沖縄島ではヌバタキ遺跡（宜野湾市教育委員会 1991）がある。

第1表 繩文時代の遺構 遺物出土状況

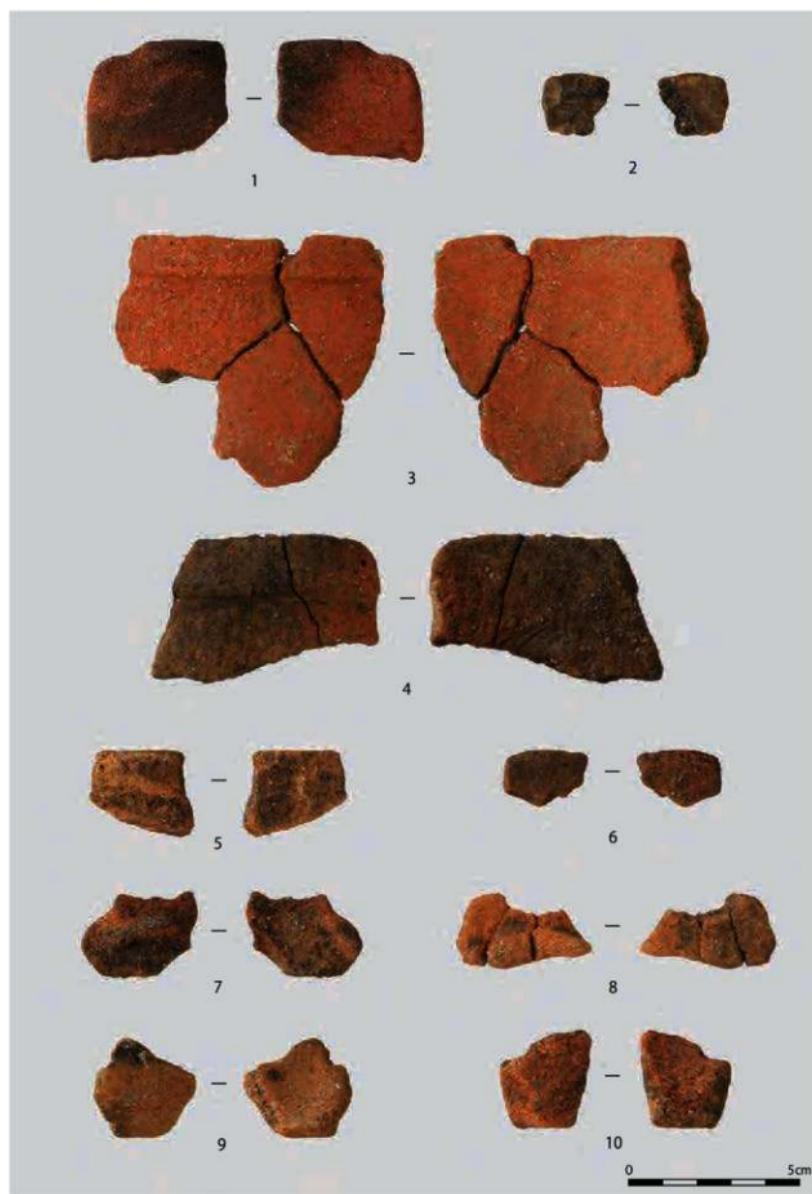
地区	遺構	遺物	分類	縄文土器			石器	石材	石材	埴土	合計
				深鉢	振袖不明	磨石					
				宇摩式	室田式	砂質					
地番	遺構	遺物	分類	深度 / 部位	口縁部	制底部	—	—	—	—	—
XIX	縄文	14-F14	SK 177	子層			1				1
	縄文	14-F15	SK 180	埋土			1				1
	縄文	14-F14	SK 230	埋土		1			1		2
	縄文	15-G2	SK 308	埋土	1	1	18	4			24
	縄文	15-G2	SK 334	埋土			3			3	6
总计					1	1	22	1	5	1	34

第2表 繩文時代 出土遺物観察一覧

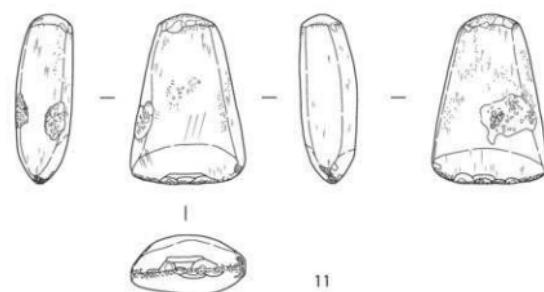
補回番号 回収場所	種類	系譜	分類	部位	法面 (cm)			観察事項			地区	出土地	遺構時間
					口縁部	底盤 (長軸)	底盤 (短軸)	—	—	—			
第1回 回収場所5	1 土器	深鉢	縄文 室田式	口縁部	—	—	—	口縁部が子母口によって平坦面をつくりだし、やや内斜面が張り出している。内外面とも表面に凹凸があり、ナデ調整を施している。胎土は砂粒を多く含んだ砂質で明褐色～暗赤褐色。			X	SK308 埋土	縄文
	2 土器	壺	縄文 宇摩式	口縁部	—	—	—	口縁部断面は玉縁状に近い三角形。指面圧痕が残る。胎土は砂質で白色系や長石を含む明赤褐色～暗赤褐色。			X	SD1 埋土	近世～近代
	3 土器	深鉢	縄文 宇摩式	口縁部	17.5	—	—	口縁部に粘土を刷り付けて断面三角形状に肥厚させる。指面圧痕が残る。胎土は砂質で白色系や長石を含む明赤褐色～暗赤褐色。			X	SK308 埋土	縄文
	4 土器	壺	縄文 宇摩式	口縁部	—	—	—	口縁部断面は二角形状。指面圧痕が残る。胎土は砂質で白色系や長石を含む明赤褐色～暗赤褐色。			X	SD3 埋土	近世～近代
	5 土器	深鉢	縄文 宇摩式	口縁部	—	—	—	口縁部に粘土を刷り付けて肥厚させる。指面圧痕やナデ調整が施される。胎土は白色などと含んだ砂質或は泥質の混在で、内外面ともに灰褐色。			XII	Ⅲ層	—
	6 土器	深鉢	縄文 宇摩式	口縁部	—	—	—	口縁部断面は玉縁状に近い三角形。指面圧痕が残る。内外面とも指面圧痕が残り、ナデ調整を施している。胎土は砂料を含むやや砂質又は泥質な表面で明褐色～暗灰色。			X	SK210 埋土	ダスク
	7 土器	深鉢	縄文 神原式	胴部	—	—	—	胴部に低状の突起を刷り付ける。内外面ともナデ調整が施されるが、突起付近に指面圧痕が残る。胎土は砂料を多く含む砂質で、内外面とも赤褐色～黒褐色。			XII	Ⅲ層	—
	8 土器	深鉢	縄文 神原式	胴部	—	—	—	胴部に突起を刷り付いているが、先端は欠損している。内外面ともナデ調整が施されるが、突起付近に指面圧痕が残る。胎土は白色砂や赤色料を含む砂質で、内外面とも土褐色。			XII	Ⅲ層	—
	9 土器	高鉢	縄文 宇摩式 or 神原式	底部	—	—	—	内外面ともナデ調整。胎土は砂質で砂粒を多く含み黄褐色。			X	SP957 埋土	ダスク
	10 土器	深鉢	縄文	底部	—	—	—	底面の削片。成形時の指面圧痕が残る。胎土は墨器などの粉料を含む砂質で、内外面とも土褐色。			XII	Ⅲ層	—
第1回 回収場所6	11 石器	石斧	縄文	—	6.9	4.6	2.3	刃面凹型。平面形は台形状を呈し、刃部は全面に研削が施されている。刃部の先端は溶けている。重量: 130 g			X	SD30 埋土	近世～近代
	12 石器	石斧	縄文	—	6	3.2	1.7	刃面凹型。側面に刃形を形成した後、全面に研削。研削によって刃が形成されている。刃部の先端に溶けた跡が認められる。重量: 23.9 g			XII	Ⅲ層	—
	13 石器	石斧?	縄文	—	—	—	—	砂質。石斧の内部を削除した石器。側面に削面による調整痕。刃部は平行によつて削られている。重量: 61.2 g			XII	N層上面	—
	14 石器	磨石 削り石	縄文	—	7.4	5.9	3.2	刃面凹型。石斧の使用品か。石材の長辺及び平田面に刃形が付いており、側面には研削痕が残る。重量: 121.4 g			XII	Ⅲ層	—
第19回 回収場所7	15 石器	石斧	縄文	—	7.3	4.1	2	刃面凹型。刃部と若柄部の側面に磨面がみられる。若柄部と基部にかけて刃形による調整痕が認められる。重量: 68.7 g			X	SK34 埋土	近世～近代
	16 石器	石斧	縄文?	—	10.2	4.3	1.1	緑色凹型。石材を平行に整形後、全面に研削を施す。刃部の先端は溶けている。重量: 76.5 g			XII	SD13 埋土	近世～近代
	17 石器	磨石	縄文	—	12.2	6.4	6.4	砂質。長辺及び平田面に刃形及び磨面。重量: 850 g			X	SP65 埋土	ダスク
第20回 回収場所8	18 石器	凹み石	縄文	—	9.7	8.5	8.5	二二二型。石材の内及び平田面の中心部に平行刃。重量: 990 g			X	SK355 埋土	近世～近代
	19 石材	石核	縄文	—	7.8	7.7	5.4	薄い青色のチャート製の石核。長辺方向及び短辺方向からの剥離によって、剥片を作り出している。剥離の方向は、短辺方向よりも長辺方向からが多い。また、剥離方向の剥離面を短辺方向のものと切り立っていることから、長辺方向から剥離した後、短辺方向から剥離を行ったと考えられる。重量: 550 g			XII	SD13 埋土	近世～近代



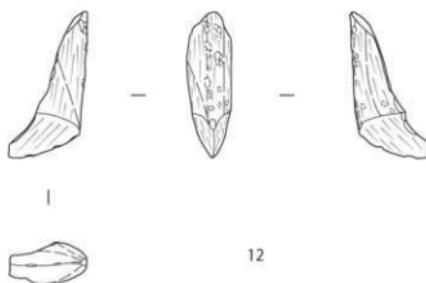
第17図 繩文時代 出土遺物 1



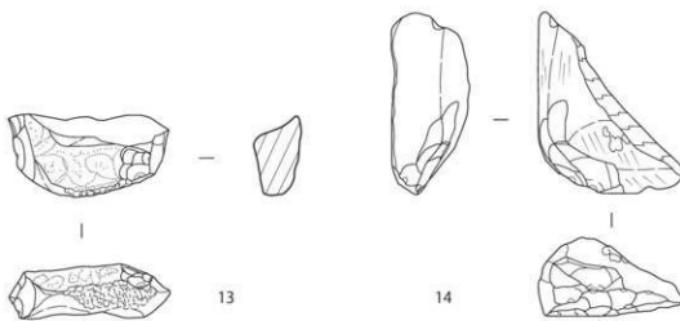
図版5 繩文時代 出土遺物1



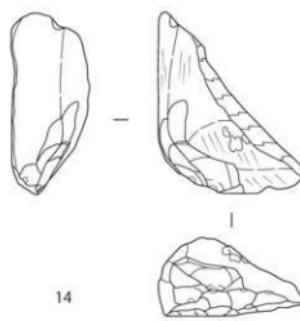
11



12



13



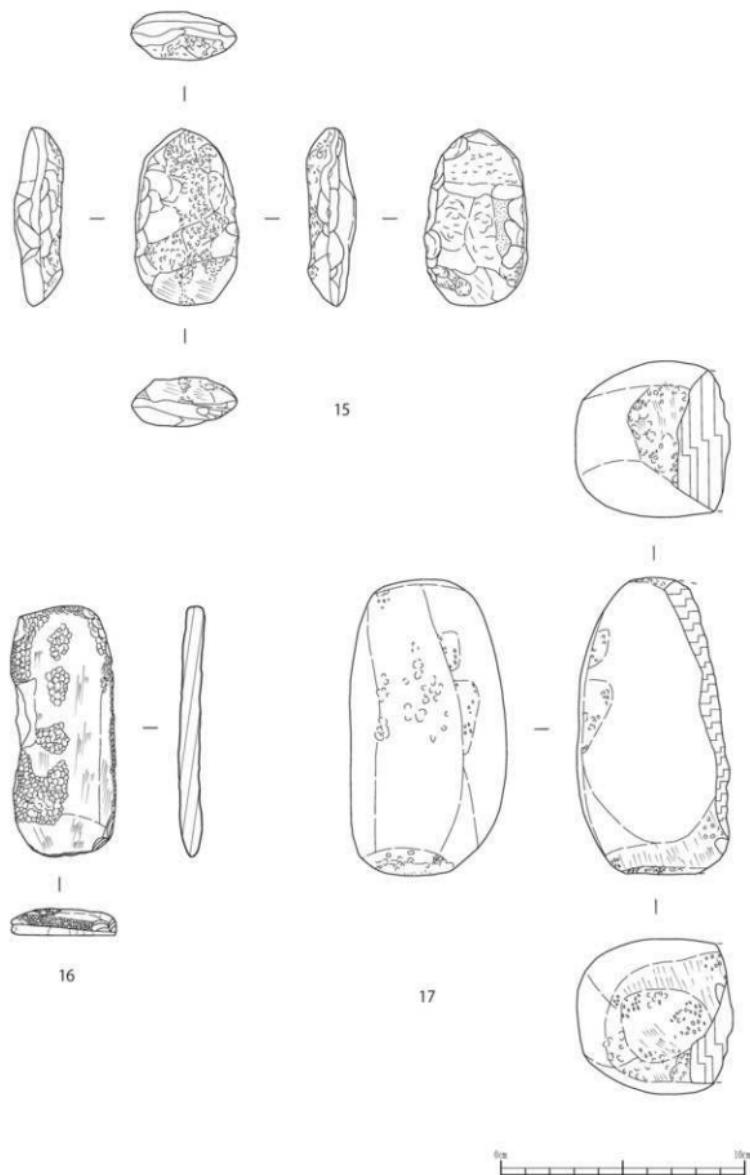
14



第18図 繩文時代 出土遺物2



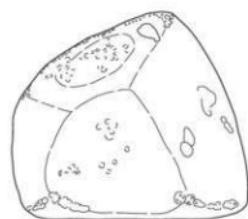
図版6 繩文時代 出土遺物 2



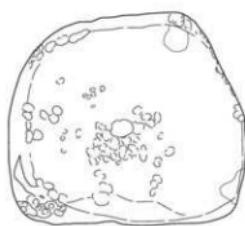
第19図 繩文時代 出土遺物 3



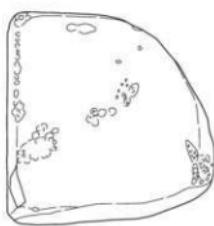
図版7 繩文時代 出土遺物 3



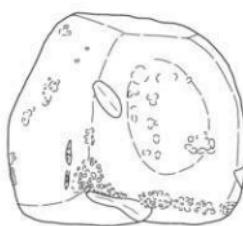
1



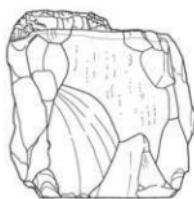
-



-



18



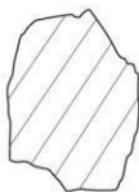
-



-



1



19



第20図 繩文時代 出土遺物 4



図版8 繩文時代 出土遺物 4

第4節 グスク時代

第1項 遺構

グスク時代の遺構はX～XII地区において、掘立柱建物跡、柵列、土坑、ピットが確認されている。遺構の殆どはピットであり、埋土は暗褐色の砂質土を呈する。X地区においては、ピット群の中で柱穴として認められ、掘立柱建物跡のプランとして想定できたものもある。

1 堀立柱建物跡

堀立柱建物跡は、X地区で25棟検出された。これら堀立柱建物跡は、主屋と高床式倉庫跡に想定されるものがある。報告の便宜上、平面形や構造から建物跡の分類を行い、遺構番号を再度付した。その結果、瑞慶覧病院地区におけるグスク時代堀立柱建物跡は、平面形から以下のようにA～E群に分類でき、建物跡の性格としては、A～C群は主屋、D群は大型建物、E群は高床式倉庫と考えられる。

ここでは各分類の概要を述べ、個々の建物跡の詳細については観察表に記載する。なお堀立柱建物跡の分類に際しては、宮城弘樹氏による分類（宮城2006、宮城ほか2007）を参考にした。

A群 柱筋が整わないもの（堀立柱建物跡1・2号）柱筋が整わずに歪むもので長方形・方形のものがある。堀立柱建物跡1号は、長方形のプランで、白磁IV類玉縁碗（第50図39）が出土した。堀立柱建物跡2号は、方形状のプランを呈する。

B群 中柱建物1種（堀立柱建物跡3～10号）長方形のプランで、中央に中柱を有するものである。堀立柱建物跡7～9号の規模は、概ね30m前後で規格性は高い。桁行の向きは概ね北西～南東方向で揃う。堀立柱建物跡5号からはグスク土器甕口縁部（第47図18）、堀立柱建物跡7号からは滑石製品（第49図35）、堀立柱建物跡9号からは石鍋模倣土器（第46図1・2）及び滑石混入土器（第48図21）が出土した。

C群 中柱建物2種（堀立柱建物跡11～13号）長方形のプランで、間仕切りがあるものや庇付建物をまとめた。堀立柱建物跡11号は中柱による間仕切りがある。平面プランはB群に類似しており、桁行の向きは北西～南東方向である。堀立柱建物跡12号は北側に庇が付く建物である。

D群 大型建物（堀立柱建物跡13号）堀立柱建物跡13号は、搅乱により北側のプランは不明であるが、6本柱の中柱を持つ大型建物跡であった可能性がある。この13号とC群の堀立柱建物跡12号は、桁行の向きは西北西～東南東方向で揃っている。グスク時代初期の大型建物については、喜界島城久遺跡群山田半田遺跡、半田口遺跡など（喜界町教委2009、2013ab）や北谷町小堀原遺跡（北谷町教委2012）に類例がある（宮城2014）。この13号からは、白磁IV類玉縁碗（第50図40）が出土している。

E群 高床式倉庫（堀立柱建物跡14～25号）高床式倉庫と考えられる4本・6本・9本柱配置の建物跡である。堀立柱建物跡14～16号は4本柱建物で、面積は概ね3～4m²である。14・16号は方形のプランであるが、16号は長方形状のプランとなる。16号の柱穴（SK422・SP1357・SP1383）や周辺のSP1378・SP1368・SP1420の埋土からは、軽石が出土している。最も多く出土したSK422では柱掘方埋土から84点出土している。堀立柱建物17～23号は6本柱建物で、桁行の向きは17・18号が西北西～東南東方向、19～23号は北西～南東方向でそれぞれ揃っている。23号のSP1382からも軽石が出土している。堀立柱建物24号は9本柱建物で、桁行の向きは北西～南東方向である。24号SP53内より地下式礎石が出土している。遺物は24号から滑石製品（第49図34）が出土している。

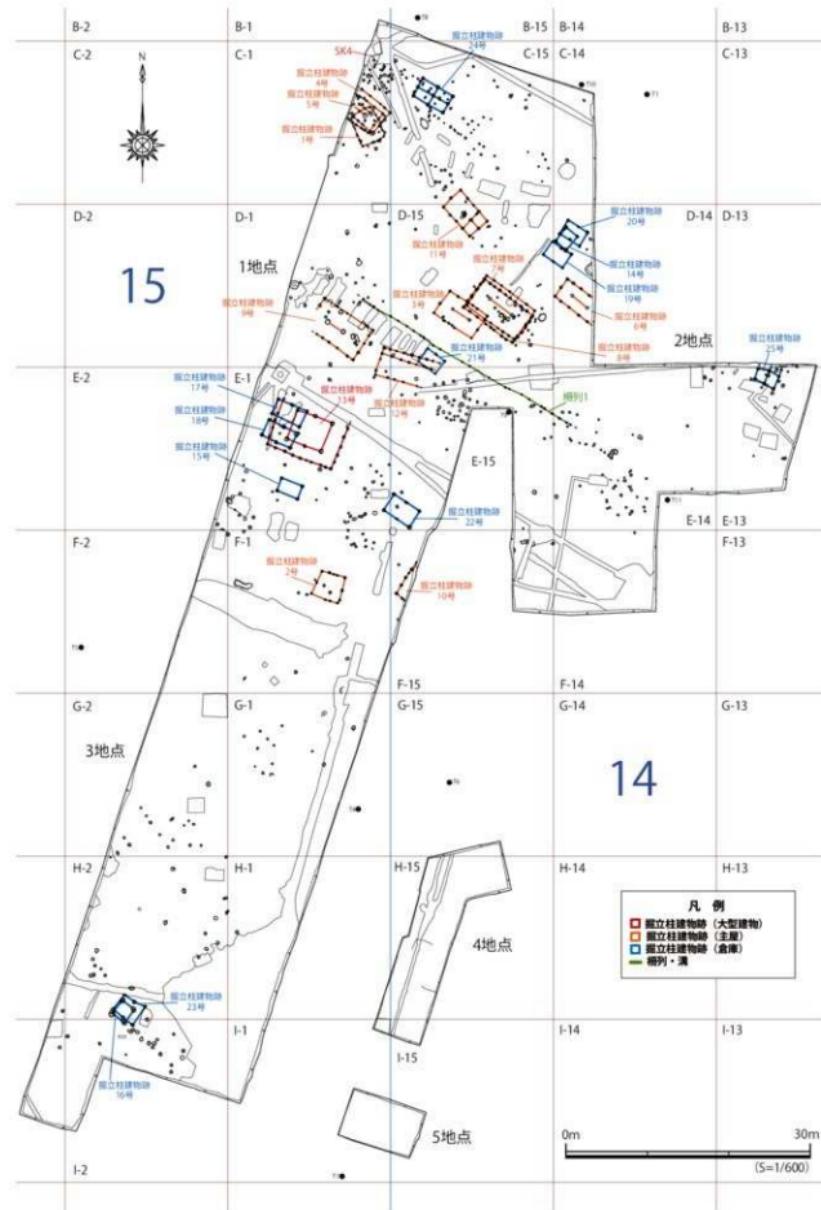
第3表 据立柱建物跡・柵列一覧（X地区）

遺構名	旧遺構名	地区	グリッド	分類	方位 (度式)	柱行(基軸) 横幅(間)	柱行(基軸) 横幅(間)	柱間(間)	面積 (m ²)	出土遺物	備考
据立柱建物跡1号	S84	X	15-C-1	A	西北-南東 (北26度西)	6	3.9	4	2.7	SP180・SP263・SP267・SP213・SP220・SP223・ SP225・SP227・SP228・SP232（グスク土器）、 SP233（白磁片）、第30回(26)、SP220（純文土器）	長方形
据立柱建物跡2号	S827	X	15-F-1	A	—	4	3.6	2	2.8	SP146（グスク土器）	方形
据立柱建物跡3号	S811	X	14-D-15	B	西北-南東 (北57度西)	5	5.5	2	3.3	SP404（グスク土器）、SP445（不明土器）、SP753（石 材、砂岩）	方形
据立柱建物跡4号	S82	X	15-C-1	B	西北-南東 (北55度西)	—	—	3	3.3	SK10・SP204（グスク土器）、SK10（燒土）	方形
据立柱建物跡5号	S83	X	15-C-1	B	西北-南東 (北55度西)	—	—	3	3	SK8（グスク土器）、第47回(18)、SP214・SP217（ワ タラニ型）、SP532（瓦片）、SP524・SP532（燒土）、 SP525（石材、砂岩）	方形
据立柱建物跡6号	S88	X	14-D-14	B	西北-南東 (北53度西)	—	—	2	2.5	SP526（瓦片、砂岩）	方形
据立柱建物跡7号	S89	X	14-D-15	B	西北-南東 (北55度西)	6	7.2	3	4.2	SP282（青石製品、第49回(35)）、SP763（純文土器 鉄器）	9号引切される
据立柱建物跡8号	S810	X	14-D-15	B	西北-南東 (北54度西)	9	7.4	5	4.1	SP581・SP725・SP735・SP736（グスク土器）、 SP539（鐵器）	7号引切る。
据立柱建物跡9号	S815	X	15-D-1	B	西北-南東 (北55度西)	(5)	7	4	4.3	SP81（瓦片）、第40回(21)、SP470（グ スク土器）、第46回(1-2)	—
据立柱建物跡10号	S826	X	14-F-15	B	—	—	—	—	—	SP137（燒土、石材、砂岩）	—
据立柱建物跡11号	S812	X	14-C-D-15	C	西北-南東 (北43度東)	4	5	2	2.8	SP229・SP307・SP310（グスク土器）、SP599・ SP286・SP270（燒土）	—
据立柱建物跡12号	S813	X	14-D-E-15 15-D-E-1	C	西北-南東 (北43度東)	—	—	4	3.4	SP1044・SP1031・SP1041・SP1053（グスク土器）、 SP1002（白磁灰胎、第50回(40)）、SP1023（砾石）、 SP1042（鐵器）	1面庇
据立柱建物跡13号	S816	X	15-E-1	D	西北-南東 (北70度西)	9	8.3 (2)	3.3 (4.5)	—	SP1064・SP1030・SP1031（瓦片）、 SP1062（白磁灰胎、第50回(40)）、SP1023（砾石）、 SP1042（鐵器）	大型建築物が SP1062（鐵器）
据立柱建物跡14号	S86	X	14-D-14	E	—	1	2.2	1	1.7	SP105	4本柱
据立柱建物跡15号	S821	X	15-E-1	E	—	1	2.7	1	1.7	SP1067（滑石混入土器）	4本柱
据立柱建物跡16号	S830	X	15-H-12	E	—	1	2	1	1.7	SK401・SP1383（グスク土器）、SK422（純文土器）、 SK422・SP1357・SP1362（鶴石）	4本柱
据立柱建物跡17号	S818	X	15-E-1	E	西北-南東 (北47度東)	2	3.8	1	1.9	SP1068（滑石混入土器）	6本柱
据立柱建物跡18号	S819	X	15-E-1	E	西北-南東 (北47度東)	2	3.8	1	2	SP1065（グスク土器）、SP1027（白磁灰胎）	6本柱
据立柱建物跡19号	S87	X	14-D-14-15	E	西北-南東 (北57度東)	2	2.8	1	1.9	SP282（グスク土器）、SP290（石材、納面片剖）	6本柱
据立柱建物跡20号	S85	X	14-D-14	E	西北-南東 (北59度東)	2	2.8	1	1.9	SP275（グスク土器）	6本柱
据立柱建物跡21号	S814	X	14-D-E-15	E	西北-南東 (北55度東)	2	2.6	1	1.9	SP458・SP518（グスク土器）	6本柱
据立柱建物跡22号	S820	X	14-E-15	E	西北-南東 (北57度東)	2	3.7	1	2.3	SP989（グスク土器）	6本柱
据立柱建物跡23号	S829	X	15-H-12	E	西北-南東 (北54度東)	2	2	1	1.5	SP1381（グスク土器）、SP1382（砾石）	6本柱
据立柱建物跡24号	S81	X	14-C-15	E	西北-南東 (北60度西)	2	4.3	1	2.3	SP271・SP29・SP46・SP65・SP68（グスク土器）、 SP965（滑石製品、第49回(34)）、砾石、第19回(17)、 SP29（石材、二七）、SP53（純文土器）、SP58（燒土）	6本柱、 地下式甕石
据立柱建物跡25号	S822	X	14-D-E-13	E	—	—	—	2	2.5	SP571・SP578・SP949（グスク土器）、SP957（燒 土器）、第17回(9)、SP571（石材、砂岩）	9本柱か
柵列1	S82	X	14-E-14- D-E-15-15-D-1	—	西北-南東 (北59度西)	—	—	—	—	SP822（純文土器）	—

第4表 据立柱建物跡一覧（|～IX地区・過年度報告遺構）

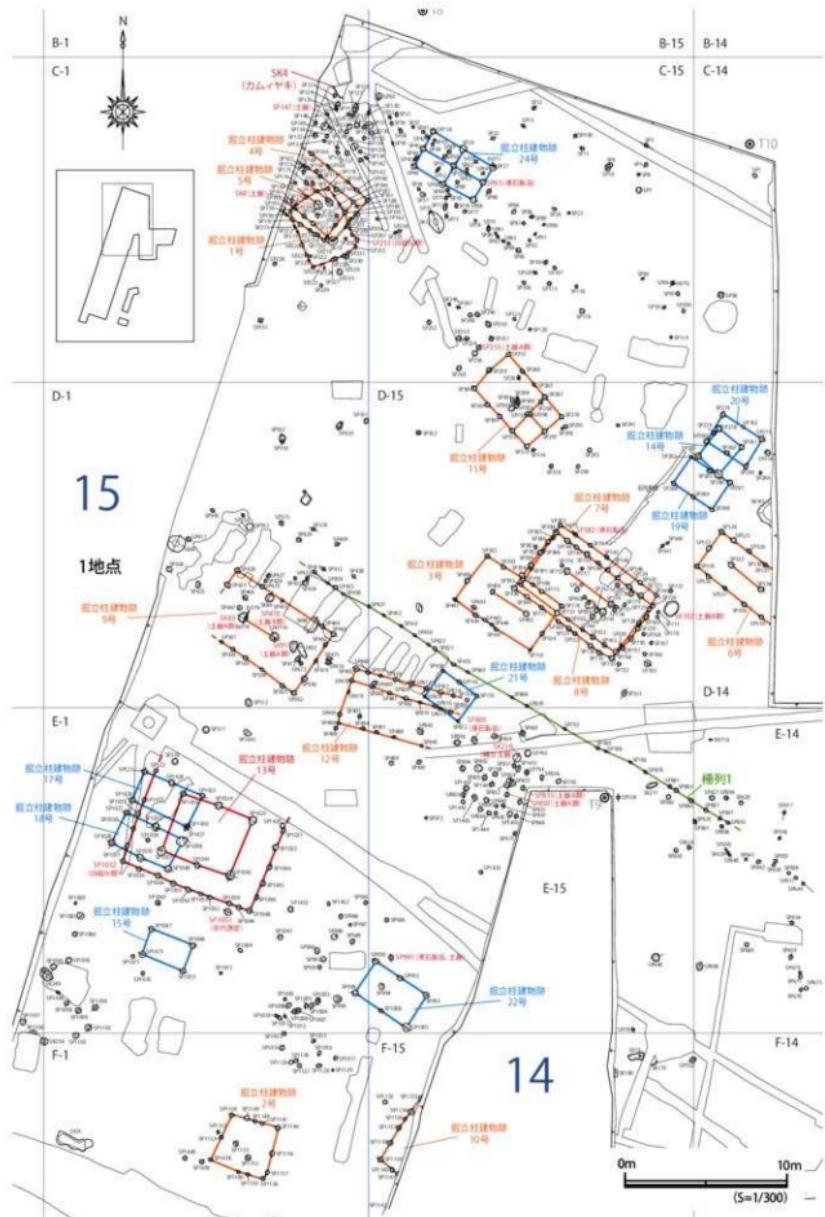
遺構名	旧遺構名	地区	グリッド	分類	方位 (度式)	柱行(基軸) 横幅(間)	柱行(基軸) 横幅(間)	柱間(間)	面積 (m ²)	出土遺物	備考	
据立柱建物1	松穴ブラン3	I	15-D-7	E	—	1	1.7	1	1.4	2.9	4本柱	
据立柱建物2	松穴ブラン4	I	15-D-7	E	—	1	1.4	1	1.4	—	4本柱	
据立柱建物3	松穴ブラン5	I	15-D-7	E	西北-南東 (北31度東)	2	3.8	1	2.4	9.1	6本柱	
据立柱建物1		15-K-10-11	B	西北-南東 (北56度西)	—	5	5	3.5	17.5	SP359（グスク土器）、SP480（純文土器）、SP269・SP473（不 明土器）、SP422（砾石）	—	
据立柱建物2		15-L-11	E	西北-南東 (北54度西)	2	3.2	1	2.1	6.7	SP370・SP383（グスク土器）、SP383（燒土）	6本柱	
据立柱建物3	ブラン1		15-I-12	E	西北-南東 (北83度西)	2	2.6	1	2.4	8.6	SP52（グスク土器）、SP34（燒土）、SP25（純文土器）	—
据立柱建物8		15-H-3-4	C	西北-南西 (北56度東)	—	—	—	—	—	SP32（純文土器）	1面庇か	
据立柱建物4		15-K-6	B	西北-南東 (北49度西)	—	—	—	—	—	SP701・SP706・SP703・SP701・SP711（純文土器）、SP711（不明土器）、 SP703（焼土）	—	
据立柱建物5		15-L-6	E	西北-南東 (北45度西)	2	3.2	1	2.2	7	SP67X（石材）	6本柱	
据立柱建物6		15-K-L-3	E	西北-南東 (北20度東)	2	3.2	2	2.4	7.6	SP611（純文土器）	9本柱	
据立柱建物7		15-K-1-2	B	東-西 (北80度東)	—	—	—	—	—	SP429（グスク土器）	—	

※参考資料：沖縄県立埋蔵文化財センター2015・2016)から、据立柱建物跡の構造及び寸測値などを転載し、遺構分類記号などを一部加筆。

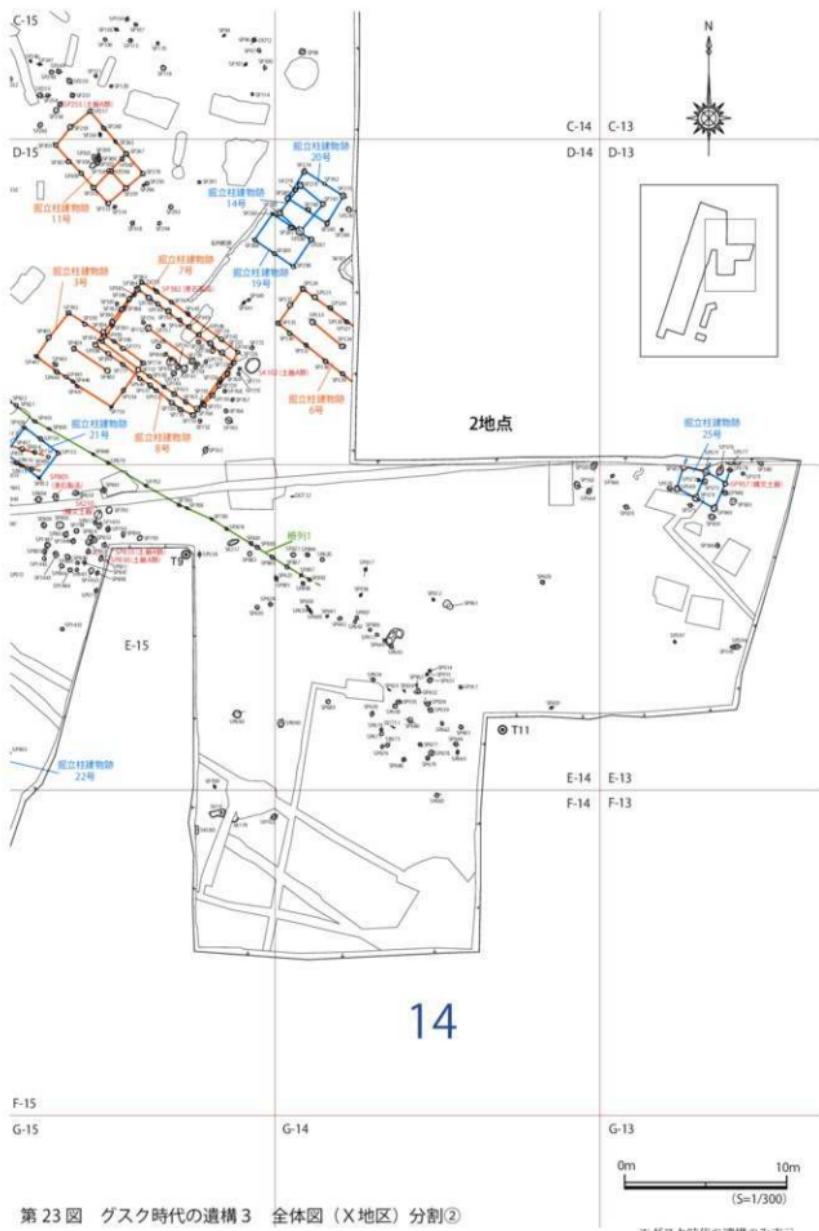


第21図 グスク時代の遺構1 全体図 (X地区)

※グスク時代の遺構のみ表示

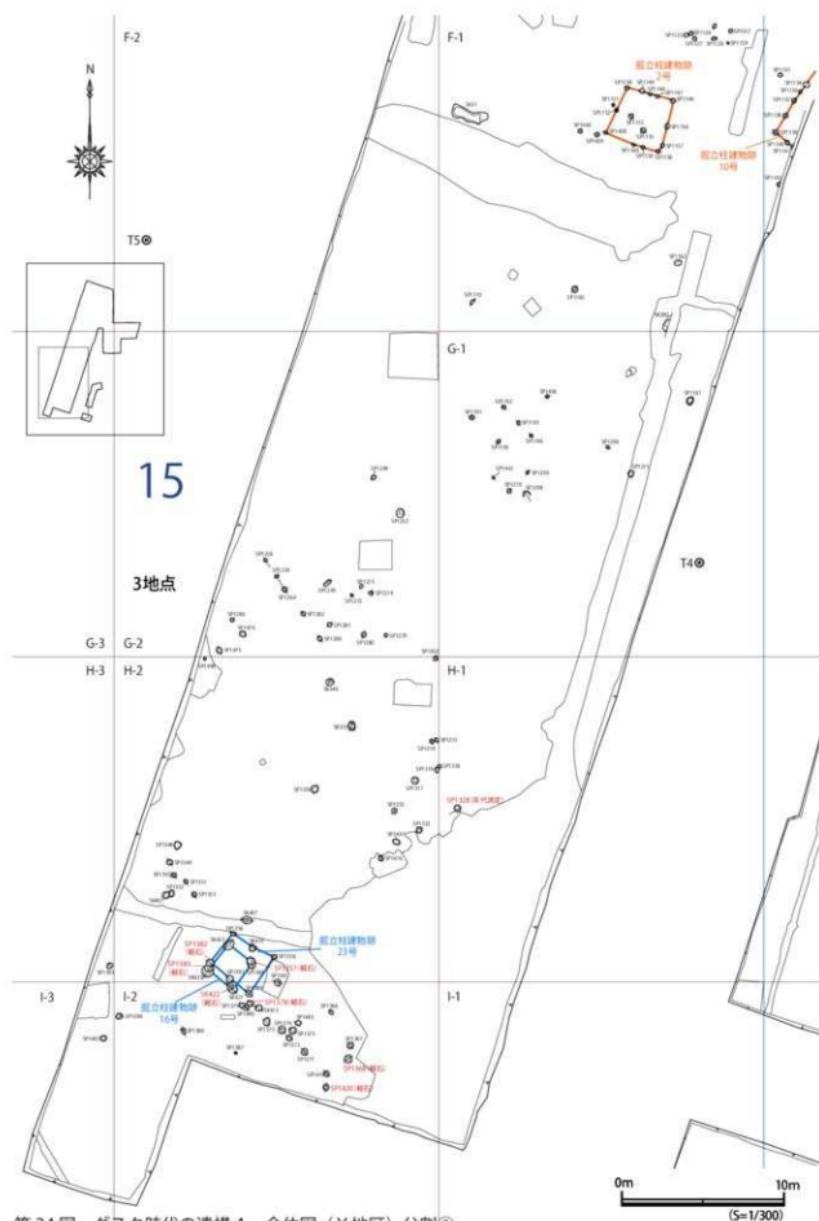


第22図 ゲスク時代の遺構2 全体図（X地区）分割①



第23図 グスク時代の遺構3 全体図（X地区）分割②

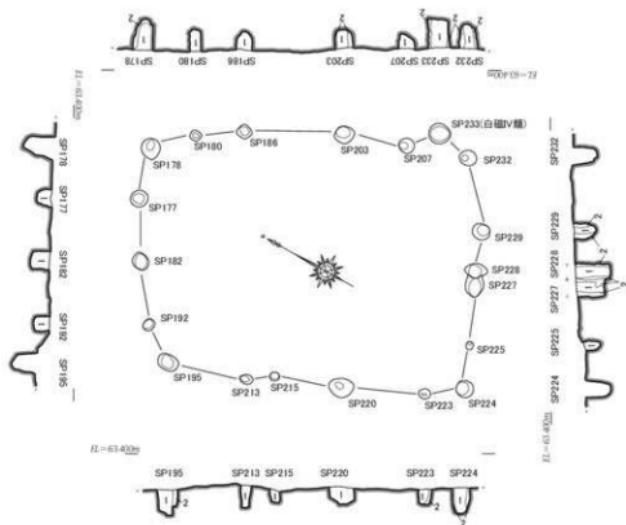
※ゲスク時代の遺構のみ表示



第24図 グスク時代の遺構4 全体図(X地区) 分割③

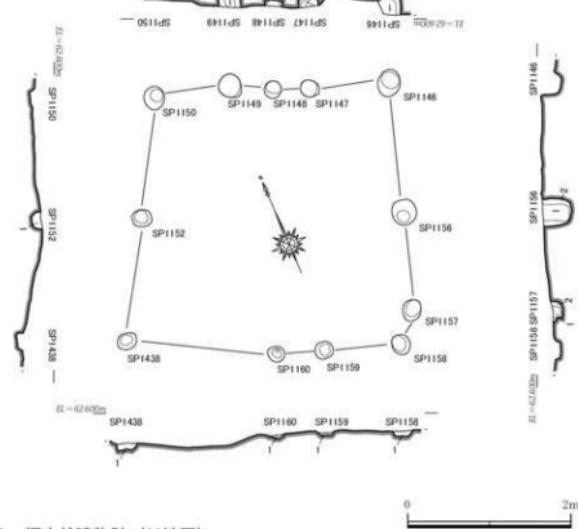
掘立柱建物跡 1号

SP177	1	10Y3/4	暗褐色
SP178	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	7.5Y3/8	明褐色	
SP180	1	10Y3/4	暗褐色
SP182	1	10Y3/4	暗褐色
SP186	1	7.5Y3/4	褐色
SP192	1	10Y3/4	暗褐色
SP195	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	7.5Y3/6	明褐色	
SP203	1	7.5Y3/4	褐色 杖頭
2	7.5Y3/6	明褐色	
SP207	1	7.5Y3/4	褐色
SP207	1	10Y3/4	暗褐色
SP213	1	10Y3/4	褐色
SP220	1	10Y3/4	褐色
SP223	1	7.5Y3/4	褐色 杖頭
2	7.5Y3/4	褐色	
SP224	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	10Y3/4	暗褐色	
SP225	1	10Y3/4	暗褐色
SP227	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	10Y3/4	暗褐色	
SP228	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	10Y3/4	暗褐色	
SP229	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	10Y3/6	褐色	
SP232	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	10Y3/4	褐色	



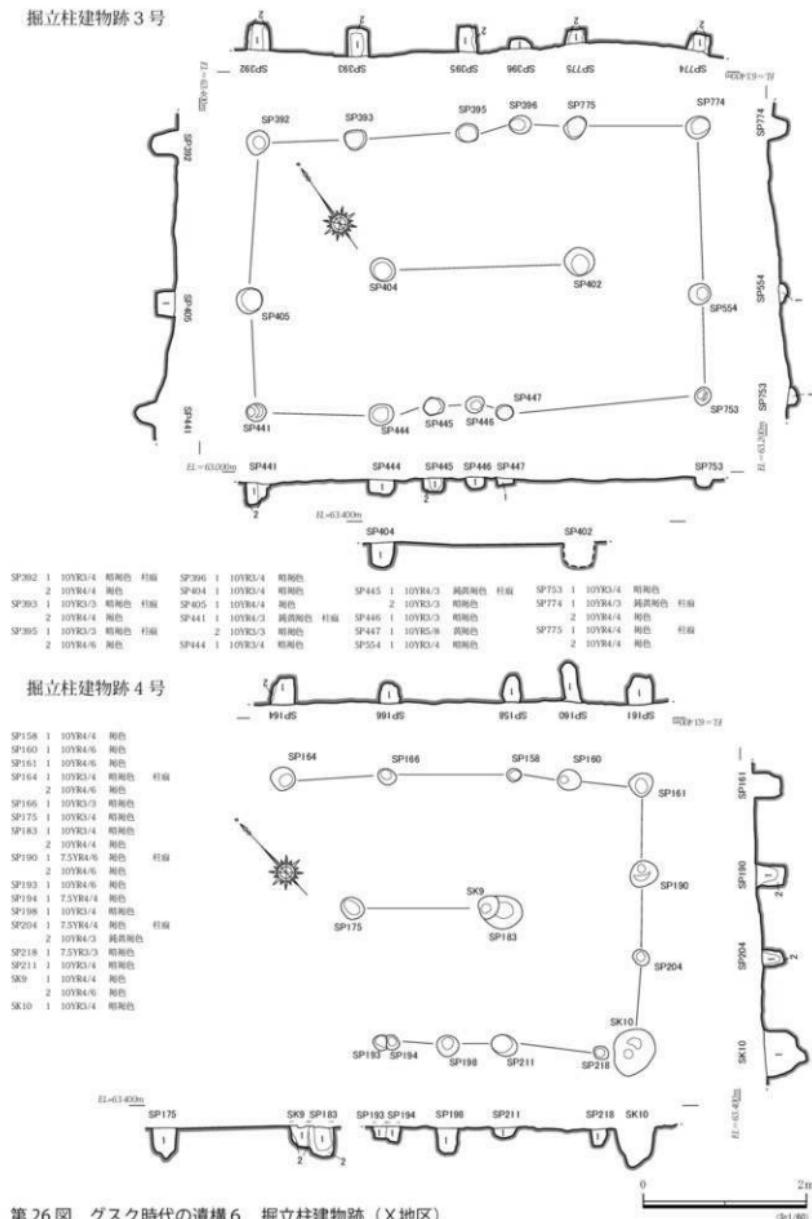
掘立柱建物跡 2号

SP1146	1	10Y3/4	暗褐色
2	10Y3/4	暗褐色	
SP1147	1	10Y3/3	暗褐色 杖頭
2	10Y3/4	褐色	
SP1148	1	10Y3/4	暗褐色
2	10Y3/3	暗褐色	
SP1149	1	10Y3/4	暗褐色 杖頭
2	10Y3/3	暗褐色	
SP1150	1	10Y3/4	暗褐色
SP1152	1	10Y3/4	暗褐色
SP1156	1	10Y3/4	暗褐色
2	10Y3/3	暗褐色	
SP1157	1	10Y3/4	暗褐色
2	10Y3/4	暗褐色	
SP1158	1	10Y3/4	暗褐色
SP1159	1	10Y3/3	暗褐色
SP1160	1	10Y3/3	暗褐色
SP1438	1	10Y3/3	暗褐色



第25図 グスク時代の遺構 5 掘立柱建物跡 (X地区)

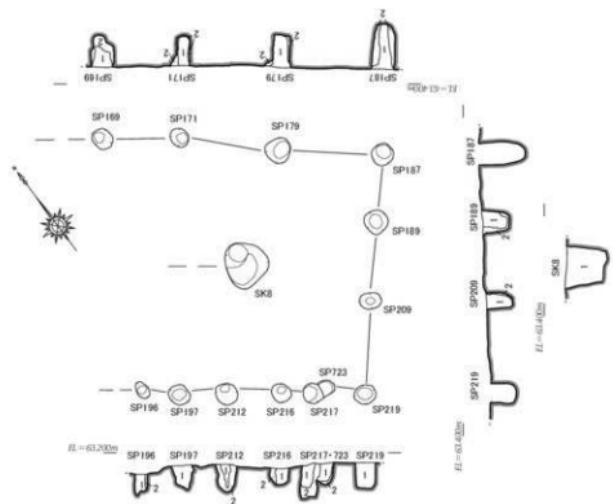
掘立柱建物跡 3 号



第26図 グスク時代の遺構6 掘立柱建物跡（X地区）

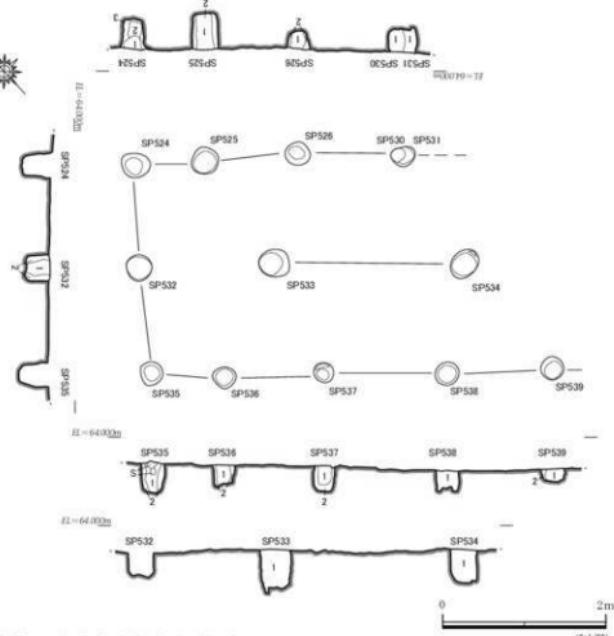
掘立柱建物跡 5号

SP169	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/3	明褐色	柱頭
SP171	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP179	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP187	1 10YR3/3	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP189	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 7.5YR5/8	明褐色	柱頭
SP196	1 10YR3/8	褐色	柱頭
	2 7.5YR4/4	褐色	柱頭
SP197	1 10YR4/4	褐色	柱頭
SP200	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP212	1 10YR4/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP216	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP217	1 10YR4/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP219	1 10YR4/4	褐色	柱頭
SP223	1 10YR4/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SK8	1 10YR3/3	褐色	柱頭



掘立柱建物跡 6号

SP524	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/6	褐色	柱頭
	3 10YR4/6	褐色	柱頭
SP525	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 7.5YR4/4	褐色	柱頭
SP526	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 7.5YR5/8	明褐色	柱頭
SP530	1 7.5YR4/4	褐色	柱頭
SP531	1 7.5YR5/8	明褐色	柱頭
SP532	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 7.5YR4/4	褐色	柱頭
SP533	1 10YR3/4	褐色	柱頭
SP534	1 10YR3/4	褐色	柱頭
SP535	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR4/4	褐色	柱頭
SP536	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 7.5YR4/3	褐色	柱頭
SP537	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 7.5YR4/4	褐色	柱頭
SP538	1 10YR3/4	褐色	柱頭
SP539	1 10YR3/4	褐色	柱頭
	2 10YR3/3	褐色	柱頭



第27図 グスク時代の遺構7 掘立柱建物跡（X地区）



掘立柱建物跡 1 号 南から



掘立柱建物跡 2 号 東から



掘立柱建物跡 3 号 南東から



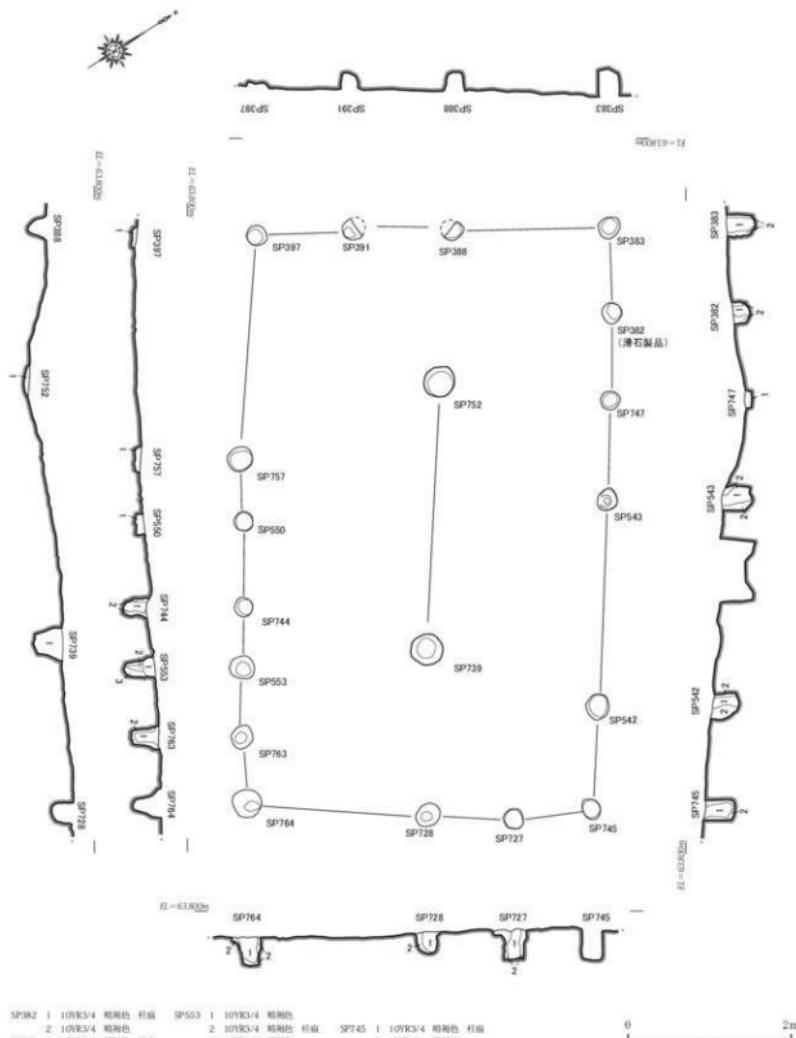
掘立柱建物跡 1・4・5 号 南東から



掘立柱建物跡 6 号 北西から

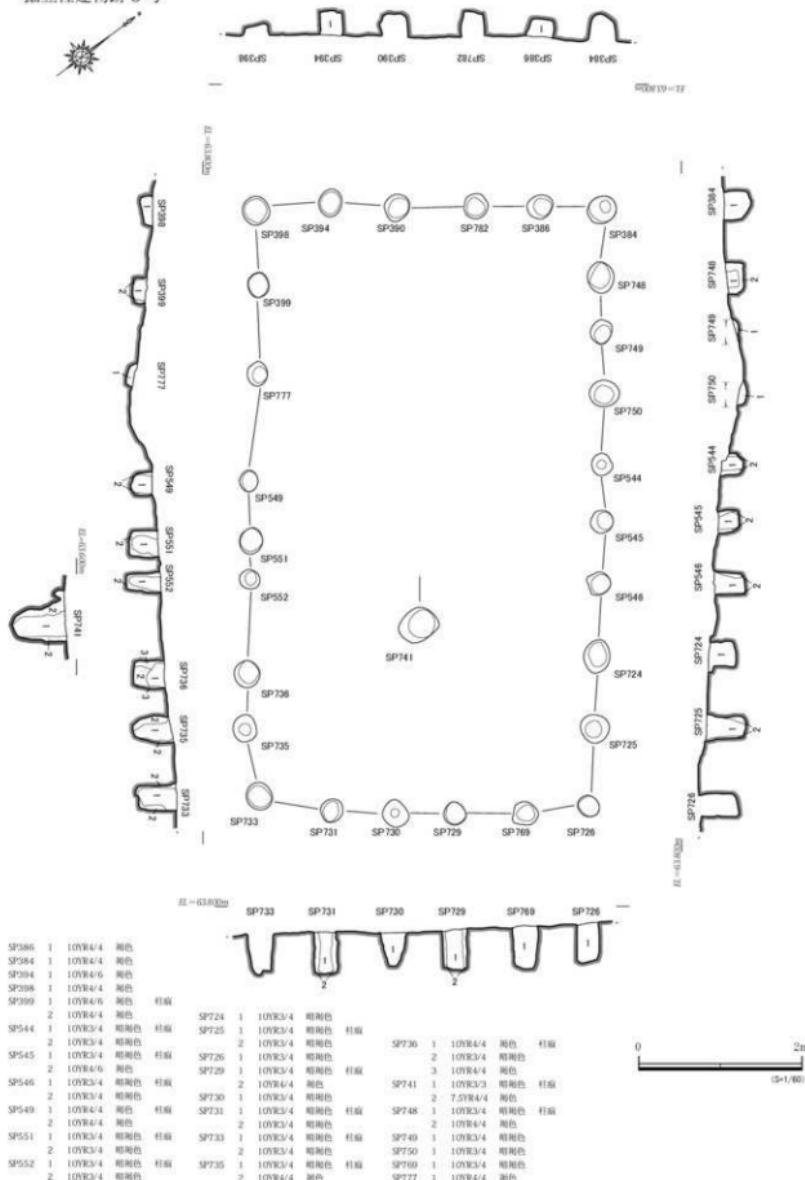
図版9 グスク時代の遺構 1 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 7 号



第28図 グスク時代の遺構8 捩立柱建物跡（Y地区）

掘立柱建物跡 8号



第29図 グスク時代の遺構9 掘立柱建物跡（X地区）

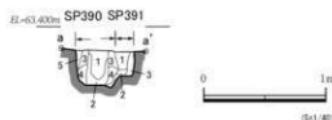
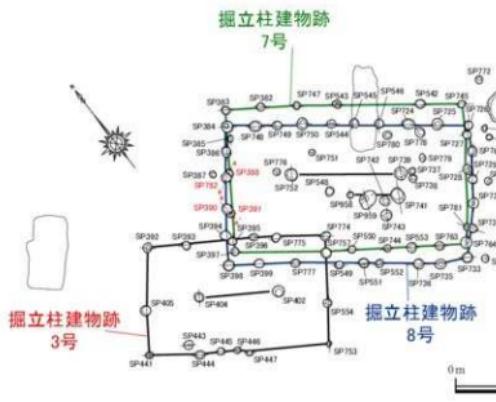


掘立柱建物跡 7・8 号 南から



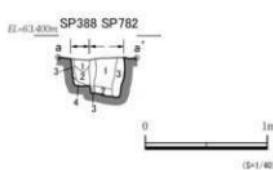
掘立柱建物跡 7・8 号 南東から

図版 10 グスク時代の遺構 2 掘立柱建物跡（X地区）



掘立柱建物跡 7・8号 SP390・391

半截状況 南西から

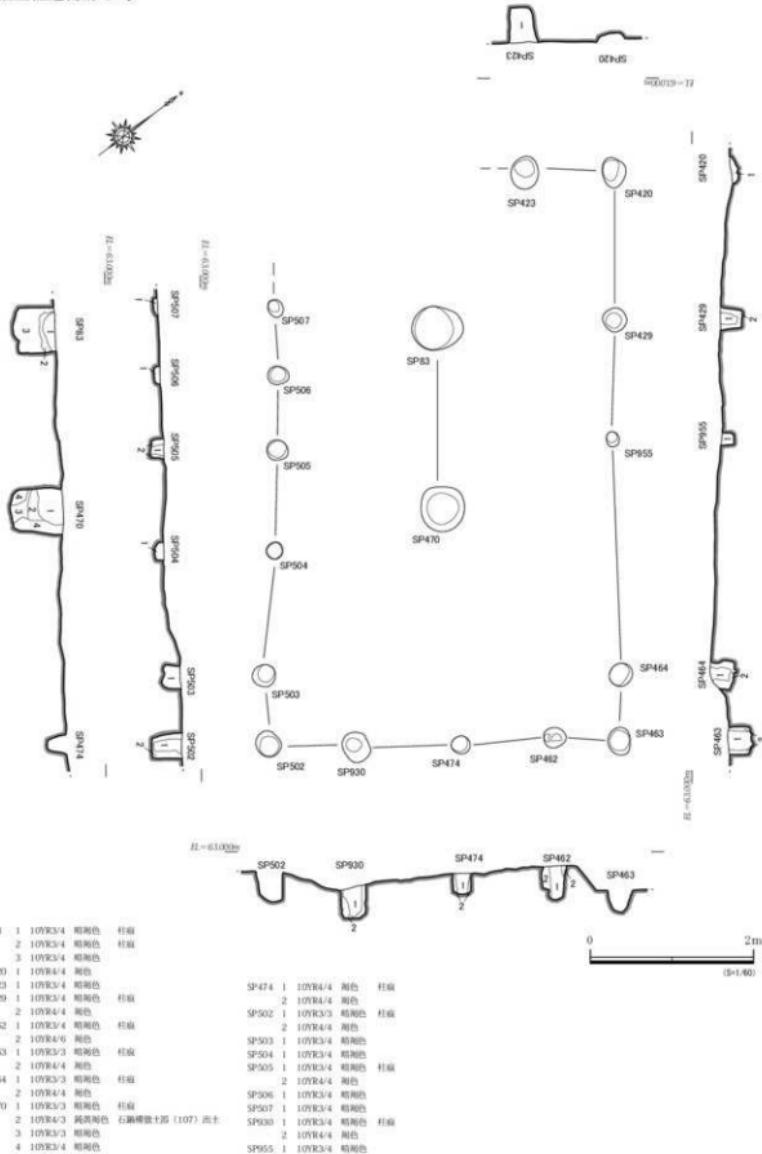


掘立柱建物跡 7・8号 SP388・782

半截状況 北西から

第30図 グスク時代の遺構 10 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 9号



第31図 グスク時代の遺構 11 掘立柱建物跡（X地区）



掘立柱建物跡 9号 南から

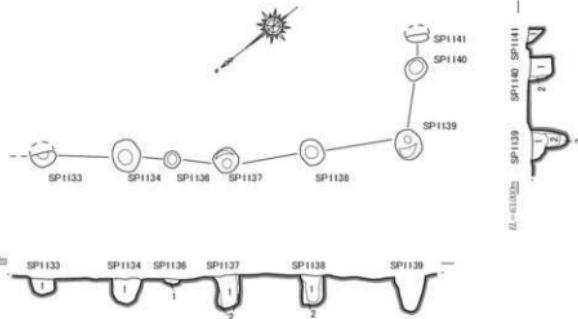


掘立柱建物跡 9号 南東から

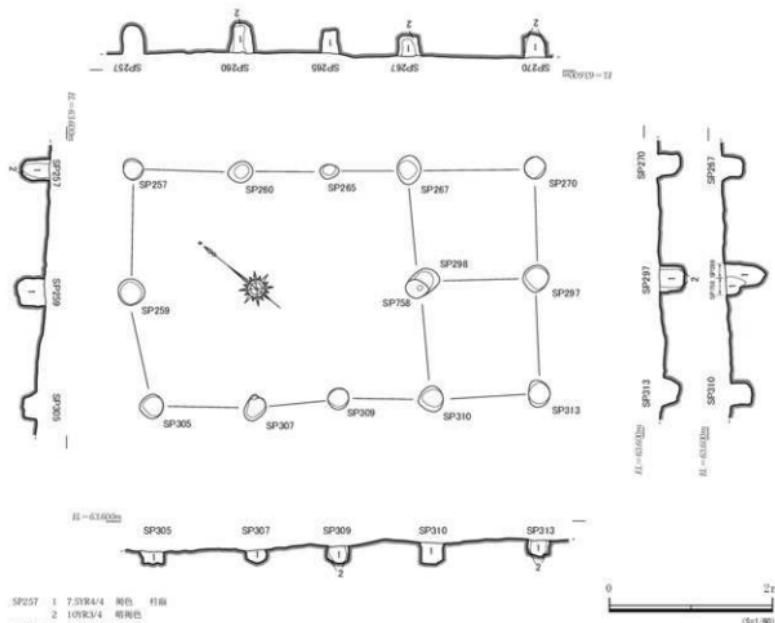
図版 11 グスク時代の遺構 3 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 10号

SP1133	1	10YR4/4	褐色
SP1134	1	10YR3/4	暗褐色
SP1135	1	10YR3/4	暗褐色
SP1137	2	10YR3/4	暗褐色
SP1138	1	10YR3/4	暗褐色
SP1138	2	10YR3/4	暗褐色
SP1139	1	10YR3/4	暗褐色
SP1139	2	10YR3/3	暗褐色
SP1139	3	10YR3/3	暗褐色
SP1140	1	10YR3/3	暗褐色
SP1140	2	10YR4/6	褐色
SP1141	1	10YR3/3	暗褐色



掘立柱建物跡 11号

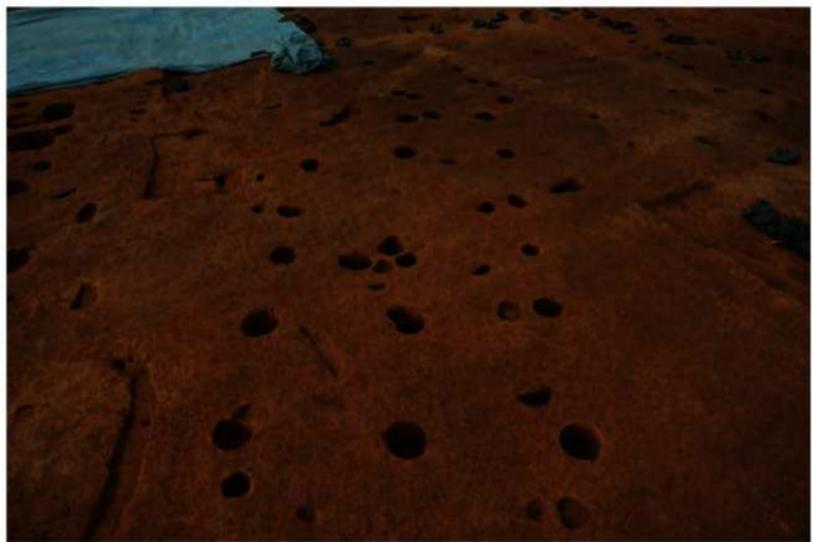


SP257	1	7.5YR4/4	褐色
SP257	2	10YR3/4	暗褐色
SP259	1	10YR3/4	暗褐色
SP260	1	10YR3/4	暗褐色
SP260	2	10YR4/6	褐色
SP265	1	10YR3/4	暗褐色
SP267	1	10YR4/4	褐色
SP267	2	10YR4/6	褐色
SP270	1	10YR3/4	暗褐色
SP270	2	10YR4/6	褐色
SP298	1	10YR3/4	暗褐色
SP298	2	10YR4/6	褐色
SP298	3	10YR4/6	褐色
SP298	4	10YR4/4	褐色
SP299	1	10YR4/4	褐色
SP305	1	10YR4/4	褐色
SP305	2	10YR4/6	褐色
SP307	1	10YR4/4	褐色
SP307	2	10YR4/6	褐色
SP309	1	10YR4/4	褐色
SP309	2	10YR4/6	褐色
SP310	1	10YR4/4	褐色
SP310	2	10YR4/6	褐色
SP310	3	7.5YR4/4	褐色
SP310	4	7.5YR4/4	褐色
SP313	1	10YR4/6	褐色
SP313	2	7.5YR4/4	褐色
SP313	3	7.5YR4/4	褐色
SP313	4	7.5YR4/4	褐色
SP313	5	7.5YR4/4	褐色
SP313	6	7.5YR4/4	褐色
SP313	7	7.5YR4/4	褐色
SP313	8	7.5YR4/4	褐色
SP313	9	7.5YR4/4	褐色
SP313	10	7.5YR4/4	褐色
SP313	11	7.5YR4/4	褐色
SP313	12	7.5YR4/4	褐色
SP313	13	7.5YR4/4	褐色
SP313	14	7.5YR4/4	褐色
SP313	15	7.5YR4/4	褐色
SP313	16	7.5YR4/4	褐色
SP313	17	7.5YR4/4	褐色
SP313	18	7.5YR4/4	褐色
SP313	19	7.5YR4/4	褐色
SP313	20	7.5YR4/4	褐色
SP313	21	7.5YR4/4	褐色
SP313	22	7.5YR4/4	褐色
SP313	23	7.5YR4/4	褐色
SP313	24	7.5YR4/4	褐色
SP313	25	7.5YR4/4	褐色
SP313	26	7.5YR4/4	褐色
SP313	27	7.5YR4/4	褐色
SP313	28	7.5YR4/4	褐色
SP313	29	7.5YR4/4	褐色
SP313	30	7.5YR4/4	褐色
SP313	31	7.5YR4/4	褐色
SP313	32	7.5YR4/4	褐色
SP313	33	7.5YR4/4	褐色
SP313	34	7.5YR4/4	褐色
SP313	35	7.5YR4/4	褐色
SP313	36	7.5YR4/4	褐色
SP313	37	7.5YR4/4	褐色
SP313	38	7.5YR4/4	褐色
SP313	39	7.5YR4/4	褐色
SP313	40	7.5YR4/4	褐色
SP313	41	7.5YR4/4	褐色
SP313	42	7.5YR4/4	褐色
SP313	43	7.5YR4/4	褐色
SP313	44	7.5YR4/4	褐色
SP313	45	7.5YR4/4	褐色
SP313	46	7.5YR4/4	褐色
SP313	47	7.5YR4/4	褐色
SP313	48	7.5YR4/4	褐色
SP313	49	7.5YR4/4	褐色
SP313	50	7.5YR4/4	褐色
SP313	51	7.5YR4/4	褐色
SP313	52	7.5YR4/4	褐色
SP313	53	7.5YR4/4	褐色
SP313	54	7.5YR4/4	褐色
SP313	55	7.5YR4/4	褐色
SP313	56	7.5YR4/4	褐色
SP313	57	7.5YR4/4	褐色
SP313	58	7.5YR4/4	褐色
SP313	59	7.5YR4/4	褐色
SP313	60	7.5YR4/4	褐色
SP313	61	7.5YR4/4	褐色
SP313	62	7.5YR4/4	褐色
SP313	63	7.5YR4/4	褐色
SP313	64	7.5YR4/4	褐色
SP313	65	7.5YR4/4	褐色
SP313	66	7.5YR4/4	褐色
SP313	67	7.5YR4/4	褐色
SP313	68	7.5YR4/4	褐色
SP313	69	7.5YR4/4	褐色
SP313	70	7.5YR4/4	褐色
SP313	71	7.5YR4/4	褐色
SP313	72	7.5YR4/4	褐色
SP313	73	7.5YR4/4	褐色
SP313	74	7.5YR4/4	褐色
SP313	75	7.5YR4/4	褐色
SP313	76	7.5YR4/4	褐色
SP313	77	7.5YR4/4	褐色
SP313	78	7.5YR4/4	褐色
SP313	79	7.5YR4/4	褐色
SP313	80	7.5YR4/4	褐色
SP313	81	7.5YR4/4	褐色
SP313	82	7.5YR4/4	褐色
SP313	83	7.5YR4/4	褐色
SP313	84	7.5YR4/4	褐色
SP313	85	7.5YR4/4	褐色
SP313	86	7.5YR4/4	褐色
SP313	87	7.5YR4/4	褐色
SP313	88	7.5YR4/4	褐色
SP313	89	7.5YR4/4	褐色
SP313	90	7.5YR4/4	褐色
SP313	91	7.5YR4/4	褐色
SP313	92	7.5YR4/4	褐色
SP313	93	7.5YR4/4	褐色
SP313	94	7.5YR4/4	褐色
SP313	95	7.5YR4/4	褐色
SP313	96	7.5YR4/4	褐色
SP313	97	7.5YR4/4	褐色
SP313	98	7.5YR4/4	褐色
SP313	99	7.5YR4/4	褐色
SP313	100	7.5YR4/4	褐色
SP313	101	7.5YR4/4	褐色
SP313	102	7.5YR4/4	褐色
SP313	103	7.5YR4/4	褐色
SP313	104	7.5YR4/4	褐色
SP313	105	7.5YR4/4	褐色
SP313	106	7.5YR4/4	褐色
SP313	107	7.5YR4/4	褐色
SP313	108	7.5YR4/4	褐色
SP313	109	7.5YR4/4	褐色
SP313	110	7.5YR4/4	褐色
SP313	111	7.5YR4/4	褐色
SP313	112	7.5YR4/4	褐色
SP313	113	7.5YR4/4	褐色
SP313	114	7.5YR4/4	褐色
SP313	115	7.5YR4/4	褐色
SP313	116	7.5YR4/4	褐色
SP313	117	7.5YR4/4	褐色
SP313	118	7.5YR4/4	褐色
SP313	119	7.5YR4/4	褐色
SP313	120	7.5YR4/4	褐色
SP313	121	7.5YR4/4	褐色
SP313	122	7.5YR4/4	褐色
SP313	123	7.5YR4/4	褐色
SP313	124	7.5YR4/4	褐色
SP313	125	7.5YR4/4	褐色
SP313	126	7.5YR4/4	褐色
SP313	127	7.5YR4/4	褐色
SP313	128	7.5YR4/4	褐色
SP313	129	7.5YR4/4	褐色
SP313	130	7.5YR4/4	褐色
SP313	131	7.5YR4/4	褐色
SP313	132	7.5YR4/4	褐色
SP313	133	7.5YR4/4	褐色
SP313	134	7.5YR4/4	褐色
SP313	135	7.5YR4/4	褐色
SP313	136	7.5YR4/4	褐色
SP313	137	7.5YR4/4	褐色
SP313	138	7.5YR4/4	褐色
SP313	139	7.5YR4/4	褐色
SP313	140	7.5YR4/4	褐色
SP313	141	7.5YR4/4	褐色
SP313	142	7.5YR4/4	褐色
SP313	143	7.5YR4/4	褐色
SP313	144	7.5YR4/4	褐色
SP313	145	7.5YR4/4	褐色
SP313	146	7.5YR4/4	褐色
SP313	147	7.5YR4/4	褐色
SP313	148	7.5YR4/4	褐色
SP313	149	7.5YR4/4	褐色
SP313	150	7.5YR4/4	褐色
SP313	151	7.5YR4/4	褐色
SP313	152	7.5YR4/4	褐色
SP313	153	7.5YR4/4	褐色
SP313	154	7.5YR4/4	褐色
SP313	155	7.5YR4/4	褐色
SP313	156	7.5YR4/4	褐色
SP313	157	7.5YR4/4	褐色
SP313	158	7.5YR4/4	褐色
SP313	159	7.5YR4/4	褐色
SP313	160	7.5YR4/4	褐色
SP313	161	7.5YR4/4	褐色
SP313	162	7.5YR4/4	褐色
SP313	163	7.5YR4/4	褐色
SP313	164	7.5YR4/4	褐色
SP313	165	7.5YR4/4	褐色
SP313	166	7.5YR4/4	褐色
SP313	167	7.5YR4/4	褐色
SP313	168	7.5YR4/4	褐色
SP313	169	7.5YR4/4	褐色
SP313	170	7.5YR4/4	褐色
SP313	171	7.5YR4/4	褐色
SP313	172	7.5YR4/4	褐色
SP313	173	7.5YR4/4	褐色
SP313	174	7.5YR4/4	褐色
SP313	175	7.5YR4/4	褐色
SP313	176	7.5YR4/4	褐色
SP313	177	7.5YR4/4	褐色
SP313	178	7.5YR4/4	褐色
SP313	179	7.5YR4/4	褐色
SP313	180	7.5YR4/4	褐色
SP313	181	7.5YR4/4	褐色
SP313	182	7.5YR4/4	褐色
SP313	183	7.5YR4/4	褐色
SP313	184	7.5YR4/4	褐色
SP313	185	7.5YR4/4	褐色
SP313	186	7.5YR4/4	褐色
SP313	187	7.5YR4/4	褐色
SP313	188	7.5YR4/4	褐色
SP313	189	7.5YR4/4	褐色
SP313	190	7.5YR4/4	褐色
SP313	191	7.5YR4/4	褐色
SP313	192	7.5YR4/4	褐色
SP313	193	7.5YR4/4	褐色
SP313	194	7.5YR4/4	褐色
SP313	195	7.5YR4/4	褐色
SP313	196	7.5YR4/4	褐色
SP313	197	7.5YR4/4	褐色
SP313	198	7.5YR4/4	褐色
SP313	199	7.5YR4/4	褐色
SP313	200	7.5YR4/4	褐色
SP313	201	7.5YR4/4	褐色
SP313	202	7.5YR4/4	褐色
SP313	203	7.5YR4/4	褐色
SP313	204	7.5YR4/4	褐色
SP313	205	7.5YR4/4	褐色
SP313	206	7.5YR4/4	褐色
SP313	207	7.5YR4/4	褐色
SP313	208	7.5YR4/4	褐色
SP313	209	7.5YR4/4	褐色
SP313	210	7.5YR4/4	褐色
SP313	211	7.5YR4/4	褐色
SP313	212	7.5YR4/4	褐色
SP313	213	7.5YR4/4	褐色

第32図 グスク時代の遺構 12 掘立柱建物跡（X地区）



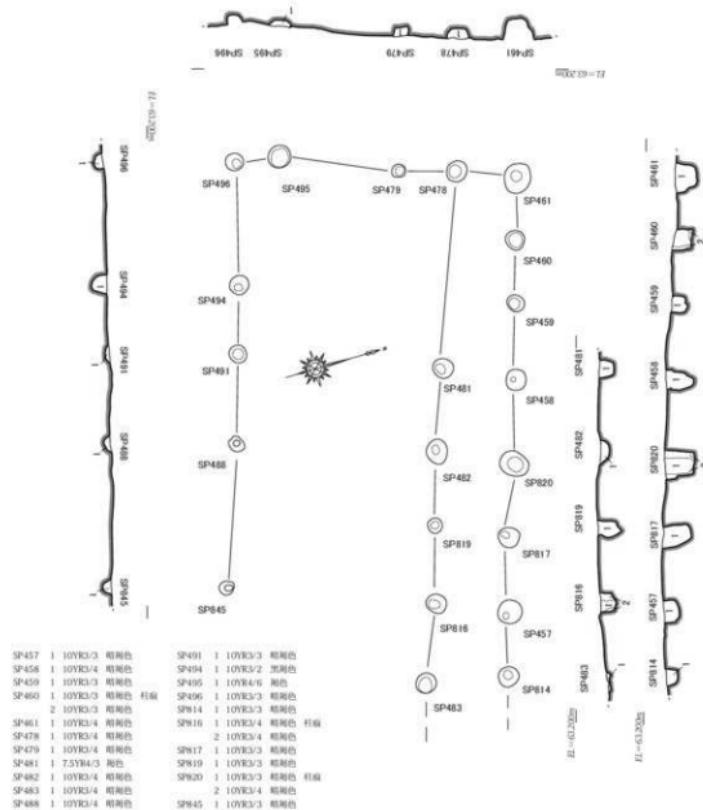
掘立柱建物跡 10号 北東から



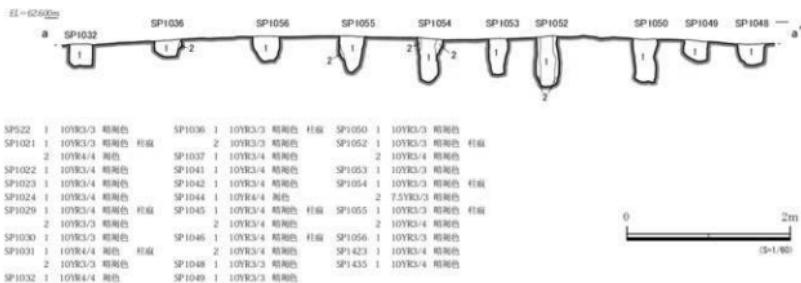
掘立柱建物跡 11号 南東から

図版 12 グスク時代の遺構 4 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 12 号



掘立柱建物跡 13号(1)



第33図 グスク時代の遺構 13 掘立柱建物跡（X地区）



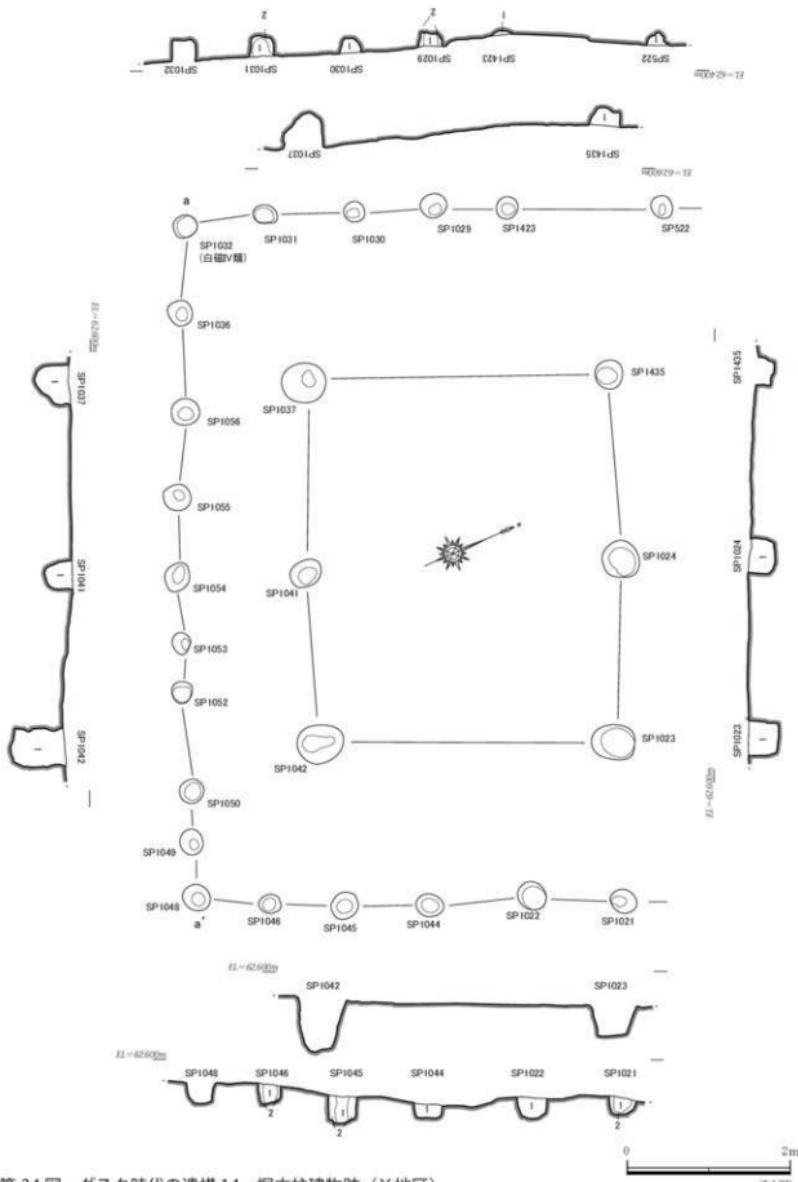
掘立柱建物跡 12号 南から



掘立柱建物跡 12号 東から

図版 13 グスク時代の遺構 5 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 13号 (2)



第34図 グスク時代の遺構 14 掘立柱建物跡 (X地区)



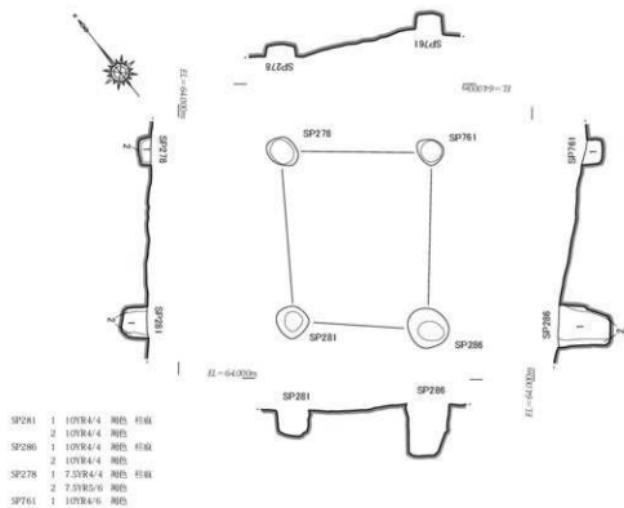
掘立柱建物跡 13・17・18号 南から



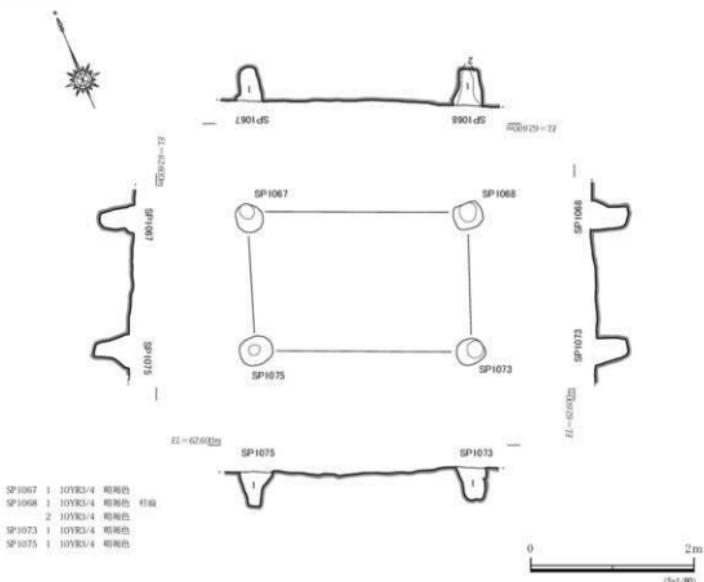
掘立柱建物跡 13・17・18号 西から

図版 14 グスク時代の遺構 6 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 14号

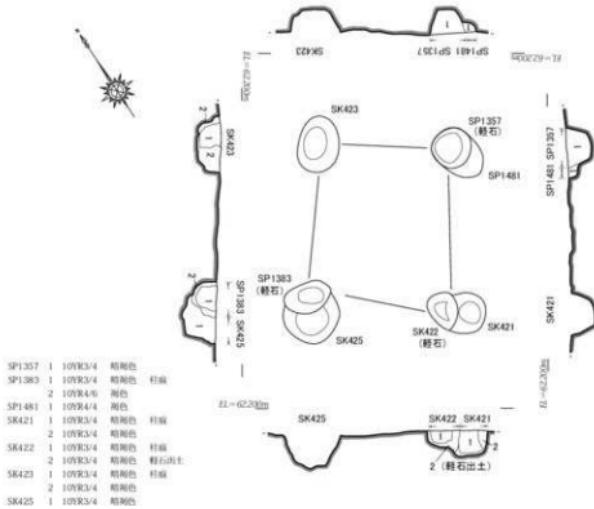


掘立柱建物跡 15号

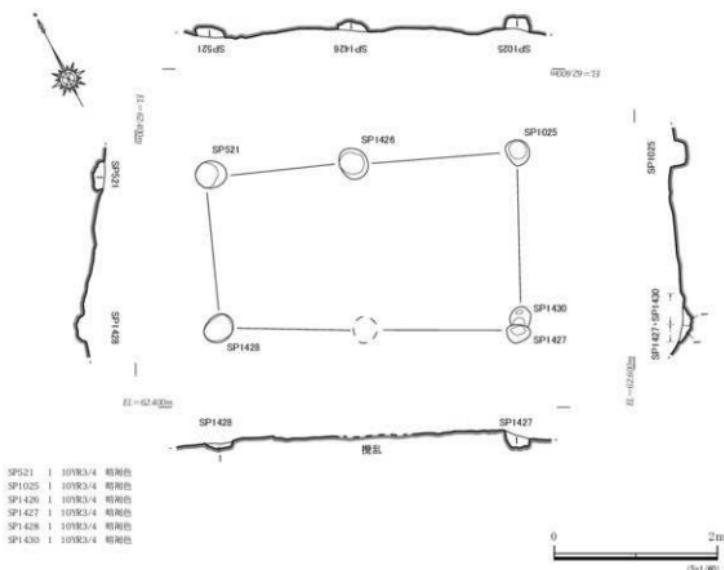


第35図 グスク時代の遺構 15 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 16号

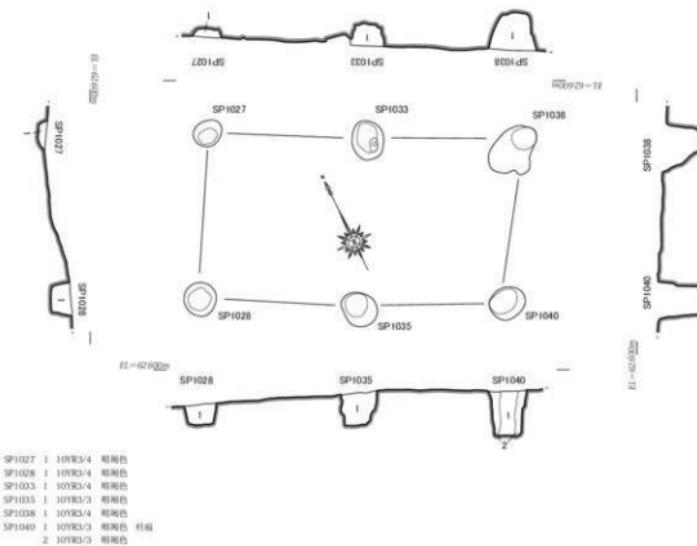


掘立柱建物跡 17 号

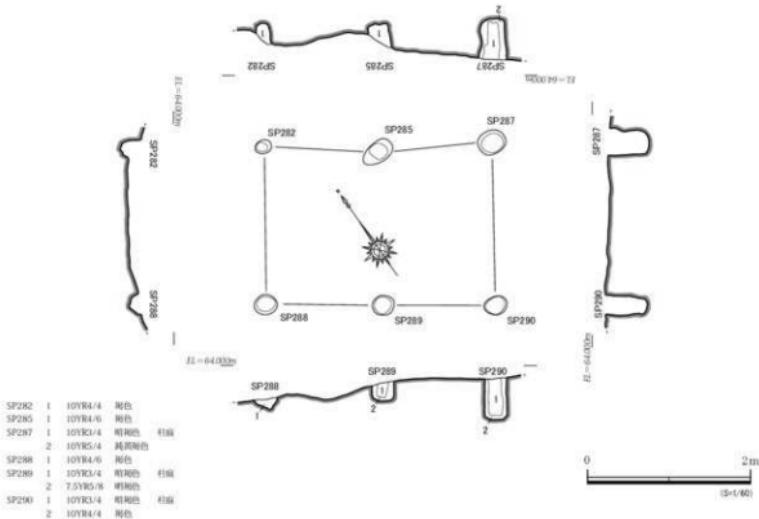


第36図 グスク時代の遺構 16 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 18号

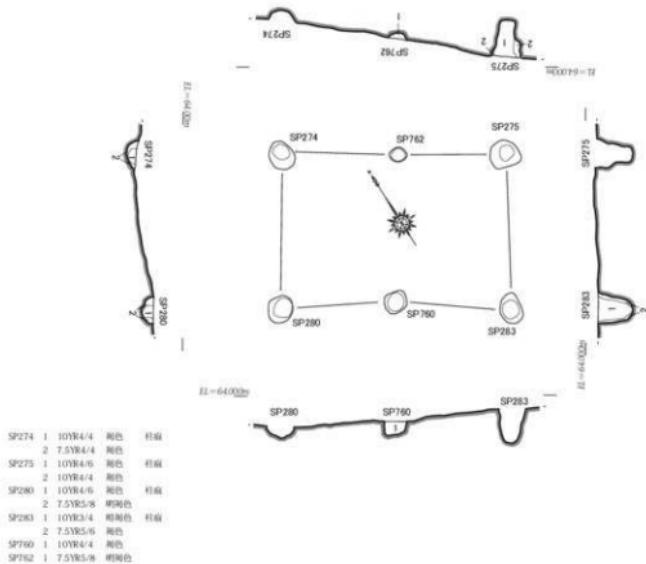


掘立柱建物跡 19号

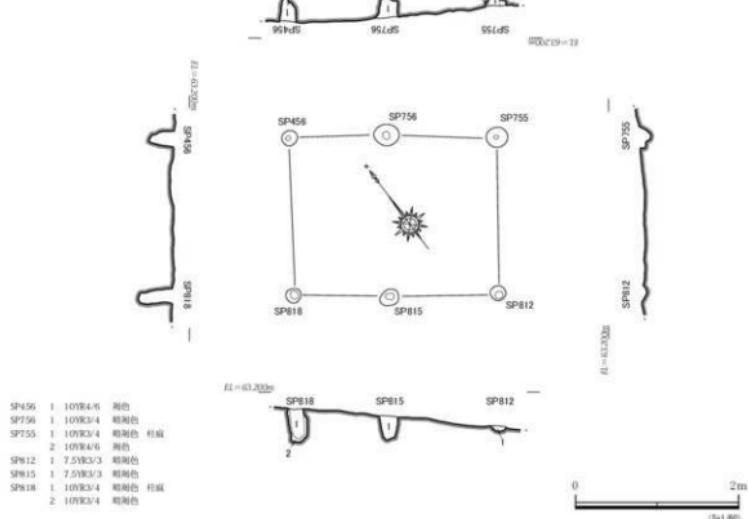


第37図 グスク時代の遺構 17 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 20 号

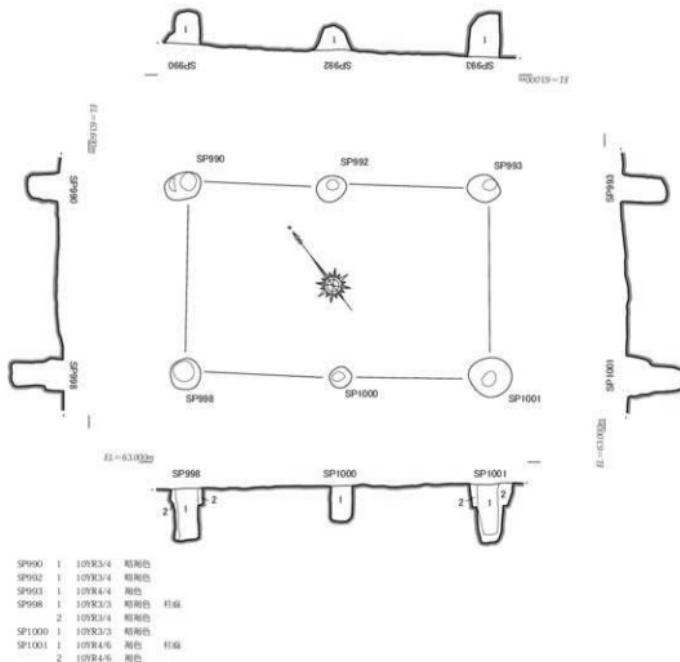


掘立柱建物跡 21 号

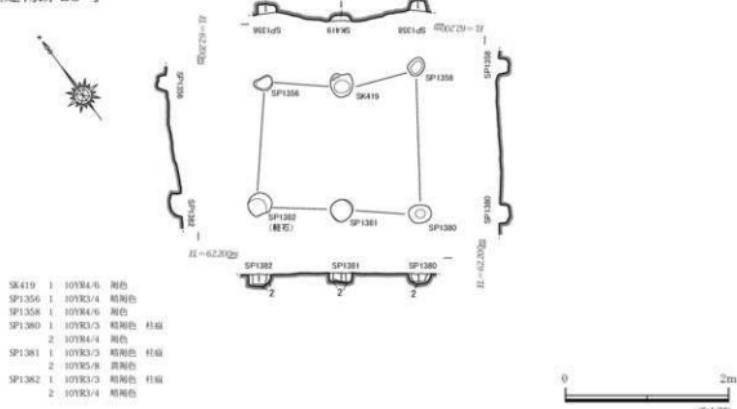


第38図 ゲスク時代の遺構 18 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 22号

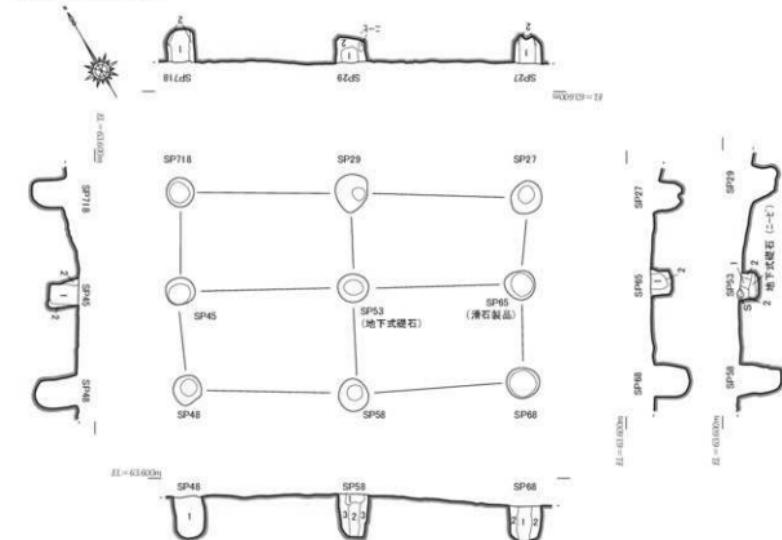


掘立柱建物跡 23号



第39図 グスク時代の遺構 19 掘立柱建物跡（X地区）

掘立柱建物跡 24 号

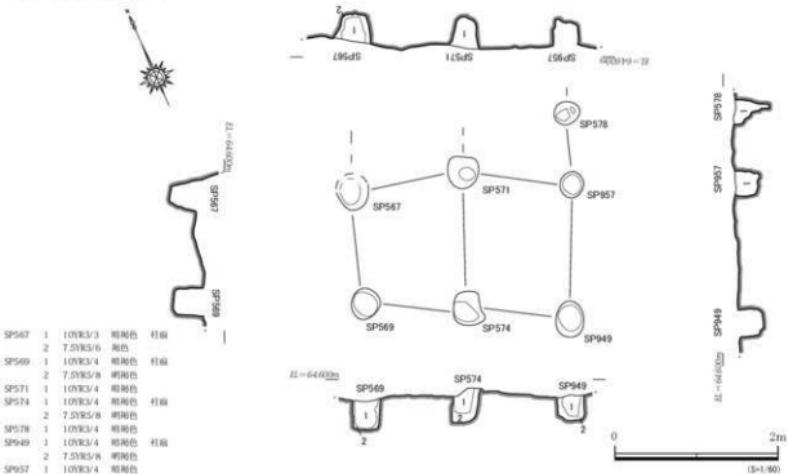


SP27	1	10YR3/4	暗褐色	粒瘤
	2	10YR3/4	暗褐色	
SP29	1	10YR4/4	褐色	粒瘤
	2	7.5YR5/8	暗褐色	ニービが粒瘤方にに入る。
SP45	1	10YR3/3	暗褐色	粒瘤
	2	10YR4/3	淡黃褐色	
SP48	1	10YR4/4	褐色	

SP53	1	10YR3/4	暗褐色	柱面	SP68
	2	10YR4/6	褐色	地下式建石(ニーピ)	
SP58	1	10YR4/4	褐色	柱面	SP718
	2	10YR4/4	褐色	柱面	
	3	10YR4/6	褐色		
SP65	1	10YR3/4	暗褐色	柱面	
	2	10YR4/6	褐色		

1 10YR3/4 暗褐色
2 10YR3/4 暗褐色
1 10YR3/4 暗褐色
2 10YR4/6 喇色

掘立柱建物跡 25 号



第40図 ゲスク時代の遺構 20 掘立柱建物跡（X地区）



掘立柱建物跡 14号 北東から



掘立柱建物跡 15号 南東から



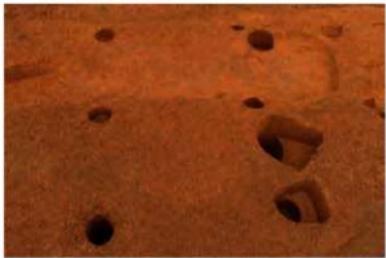
掘立柱建物跡 16号 南東から



掘立柱建物跡 17号 北西から



掘立柱建物跡 18号 北西から



掘立柱建物跡 19号 南東から



掘立柱建物跡 20号 北東から



掘立柱建物跡 21号 南東から

図版 15 グスク時代の遺構 7 掘立柱建物跡（X地区）



掘立柱建物跡 22 号 南東から



掘立柱建物跡 23 号 南東から



掘立柱建物跡 24 号 北東から



掘立柱建物跡 25 号 南から



掘立柱建物跡 13 号 SP1023 半裁状況 北から



掘立柱建物跡 24 号 SP29 半裁状況 北から



掘立柱建物跡 7 号 SP382 滑石片検出状況 東から



掘立柱建物跡 7 号 SP382 半裁状況 北東から

図版 16 グスク時代の遺構 8 掘立柱建物跡（X地区）



掘立柱建物跡 9号 SK83 土器出土状況 南から



同左 拡大



掘立柱建物跡 9号 SP470 土器出土状況 西から



同左 拡大



掘立柱建物跡 24号 SP53 磐石出土状況 東から



同左 断割状況



X地区 SP147 土器出土状況 北から



同左 拡大

図版 17 グスク時代の遺構 9 掘立柱建物跡（X地区）



X地区 SP991 土器出土状況 北東から



同左 拡大



掘立柱建物跡 16号 SP422 軽石出土状況 南から X地区 SP1378 南から



図版 18 グスク時代の遺構 10 掘立柱建物跡（X地区）

以上、X地区の掘立柱建物跡を報告した。この中で、主屋（掘立柱建物跡B～C群）と大型建物（掘立柱建物跡D群）、高床式倉庫（掘立柱建物跡E群）は、北西—南東方向もしくは西北西—東南東方向で概ね揃っている点で特筆される。

掘立柱建物跡の柱穴には柱痕が残るものもあり、主屋の側柱は幅10～15cm前後のものが多く、中柱は幅20cm前後のものから40cmを越すものもある。中柱は建物の規模に合わせて構築されている。高床式倉庫の柱痕は20～30cm前後のものが多い。

また、これらの建物跡群の中で、いくつか重複する建物跡も確認されている。A群掘立柱建物跡1号とB群掘立柱建物跡4・5号は重複している。ともに主屋と考えられ、A群とB群の先後関係は不明であるが、出土遺物からはそこまでの時期差はないものと思われる。同じB群建物跡の重複として、掘立柱建物跡4・5号と掘立柱建物跡7・8号はそれぞれ重複し、同位置における建て替えが行われたとみられる。ピットの切りあいから、7号→8号の新旧関係を確認できた（第30図）。さらに、掘立柱建物跡3号は7・8号の南西側で重複するが、先後関係は不明である。D群掘立柱建物跡13号とE群の掘立柱建物跡17・18号も重複しているが、先後関係は不明であるが、ともに桁行の向きは揃う。また、掘立柱建物跡12号を含めると、掘立柱建物跡12・13・17・18号は西北西—東南東方向で桁行の方向が揃っており、他の建物跡群とは方向が異なることから、なんらかの関係があった可能性がある。E群の掘立柱建物跡14・19・20号と、掘立柱建物跡16・23号もそれぞれ重複している。いずれも先後関係は不明であるが、当該地において高床式倉庫の建て替えを行ったのであろう。

このように、掘立柱建物跡の重複関係は、グスク時代の集落における建物の広がりと展開を考える上で重要な手がかりの一つとなる。

掘立柱建物跡群の年代を検討するため、掘立柱建物跡の柱穴ではないが、同時期とみられるSP1051・SP1328より採取された炭化材から、放射性炭素年代測定を実施した結果、SP1051が $845 \pm 25\text{BP}$ （12世紀後半～13世紀中頃）、SP1328が $1,060 \pm 25\text{BP}$ （10世紀初頭～11世紀前半）の値が示されている。詳細は第5章に記載する。SP1051は15-E1グリッドの掘立柱建物跡13号の南側に隣接して位置し、SP1328は15-H1グリッドに位置する。

掘立柱建物跡群の時期については、柱穴の出土遺物からグスク時代初期（11～12世紀）に位置づけられる。

2 檻列

X地区1地点～2地点（ズケ15-D1、ズケ14-E14・15・D15グリッド）において、掘立柱建物跡群とともに検出された。ビットが北西～南東方向に並ぶもので、掘立柱建物跡B～D群の桁行と向きが揃うことから、グスク時代初期における集落を区画する柵列とみられる。



SP451 半裁断面 北から



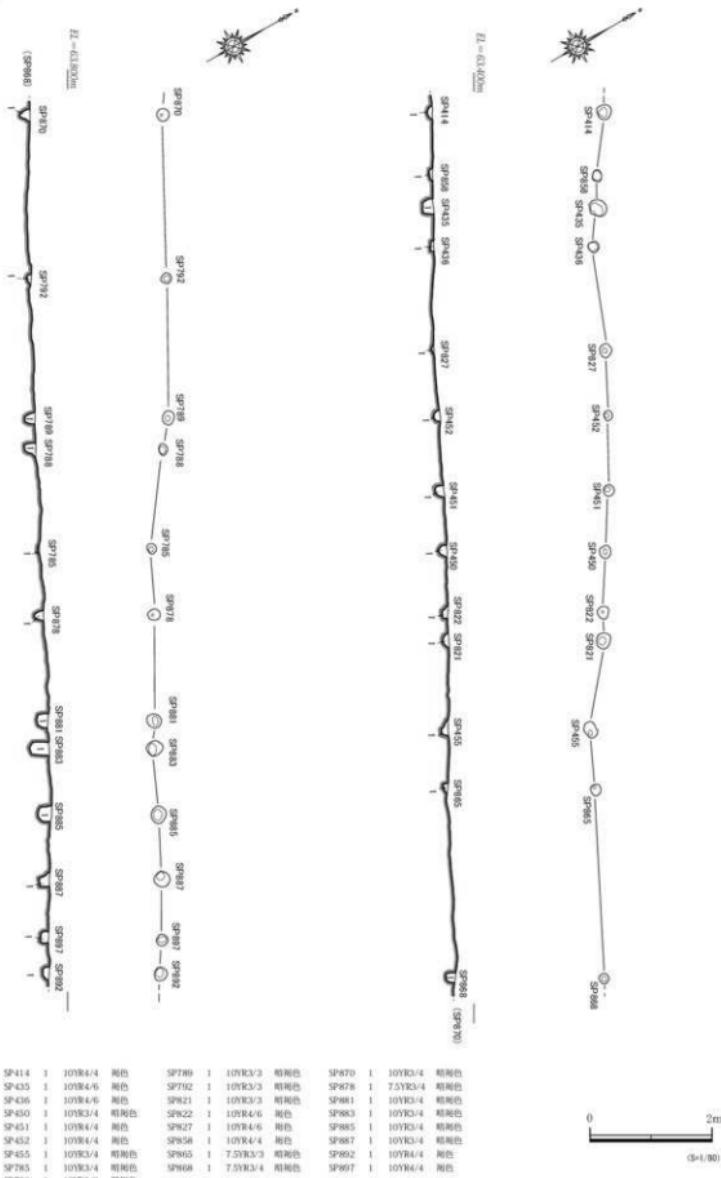
SP435 半裁断面 北東から



柵列1 検出状況

図版19 グスク時代の遺構11 柵列（X地区）

柵列 1

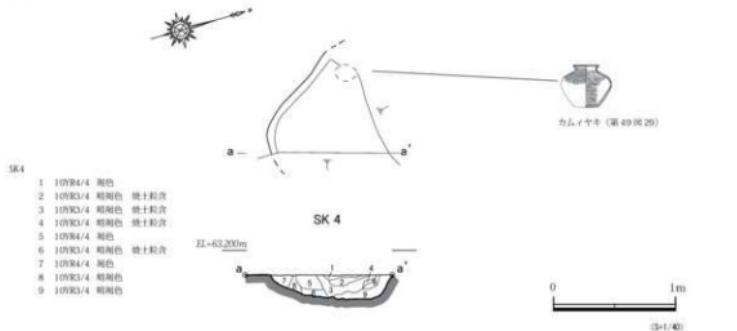


第41図 グスク時代の遺構 21 柵列 (X地区)

3 土坑

グスク時代の土坑は、X～ XII 地区で 58 基検出されており（X地区：25 基、XI 地区：25 基、XII 地区：8 基）、検出された土坑は、平面形が円形・不定形なものが多い。

SK 4 は、X 地区 1 地点 15 - C 1 グリッドに位置する。攪乱により南西側端部のみが残存するもので、全体の形態は不明である。埋土は、焼土粒混じりの暗褐色土を呈する。遺構内北側の攪乱部分との境目からは、残りの良いカムイヤキ（第 49 図 29）が出土している。カムイヤキは口縁部が北西側を向いて倒れた状態で出土したが、攪乱により半分が欠損していることから、出土状況は元の位置を保っていない可能性がある。



SK4 カムイヤキ出土状況 南東から



同左 拡大



SK4 断面 東から



調査状況

第 42 図 グスク時代の遺構 22 土坑（X地区）

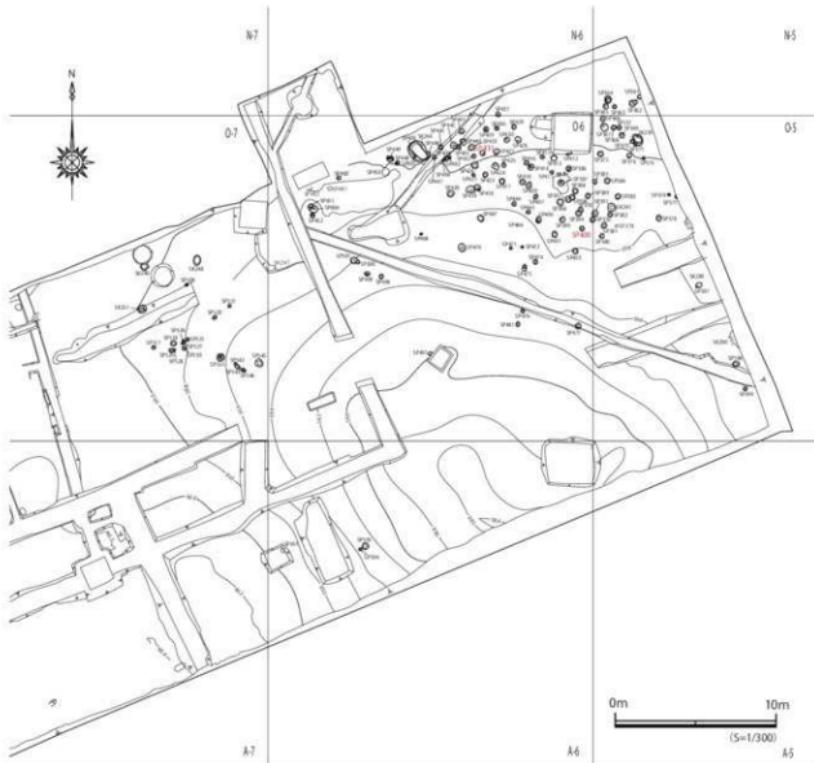
4 ピット

ピットは、1587基検出された（X地区：825基、XI地区：185基、XII地区：577基）。瑞慶賀病院地区では、V層面（マージ）で近世～近代の遺構とともに検出されることが多い。X地区では1～3地点の調査区全面にピット群が検出され、その多くは掘立柱建物跡群として報告した。

XI地区1地点、XII地区2地点では、谷状に窪む地形にグスク時代の包含層（Ⅲ層）が堆積しており、その下のIV層及びV層上面においてピット群が検出された。

XI地区1地点ピット集中部

XI地区1地点（2面目）では、平坦面から谷上部の緩やかな傾斜面にかけてピット群が検出された。特に谷北側に集中して検出されている。ピットは、半裁時に柱痕を確認できたものもあるが、柱穴として掘立柱建物跡の明確なプランは確認できなかった。ピットからはグスク土器が僅かに出土する。Ⅲ層からは、グスク土器や白磁IV類玉縁碗、カムイヤキが出土している。

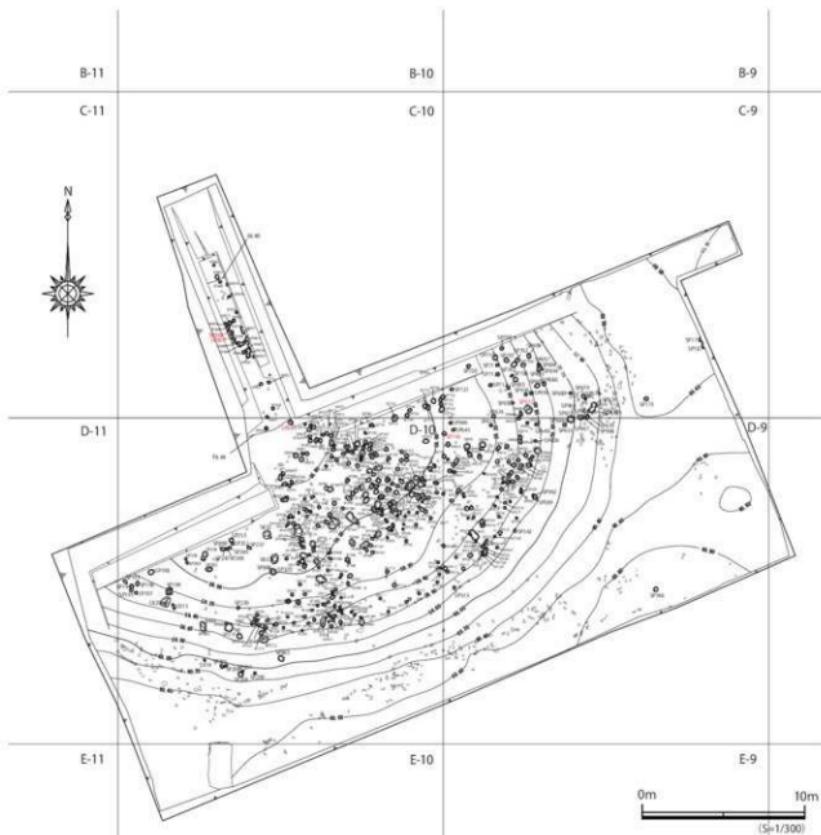


第43図 グスク時代の遺構23 全体図（XI地区）

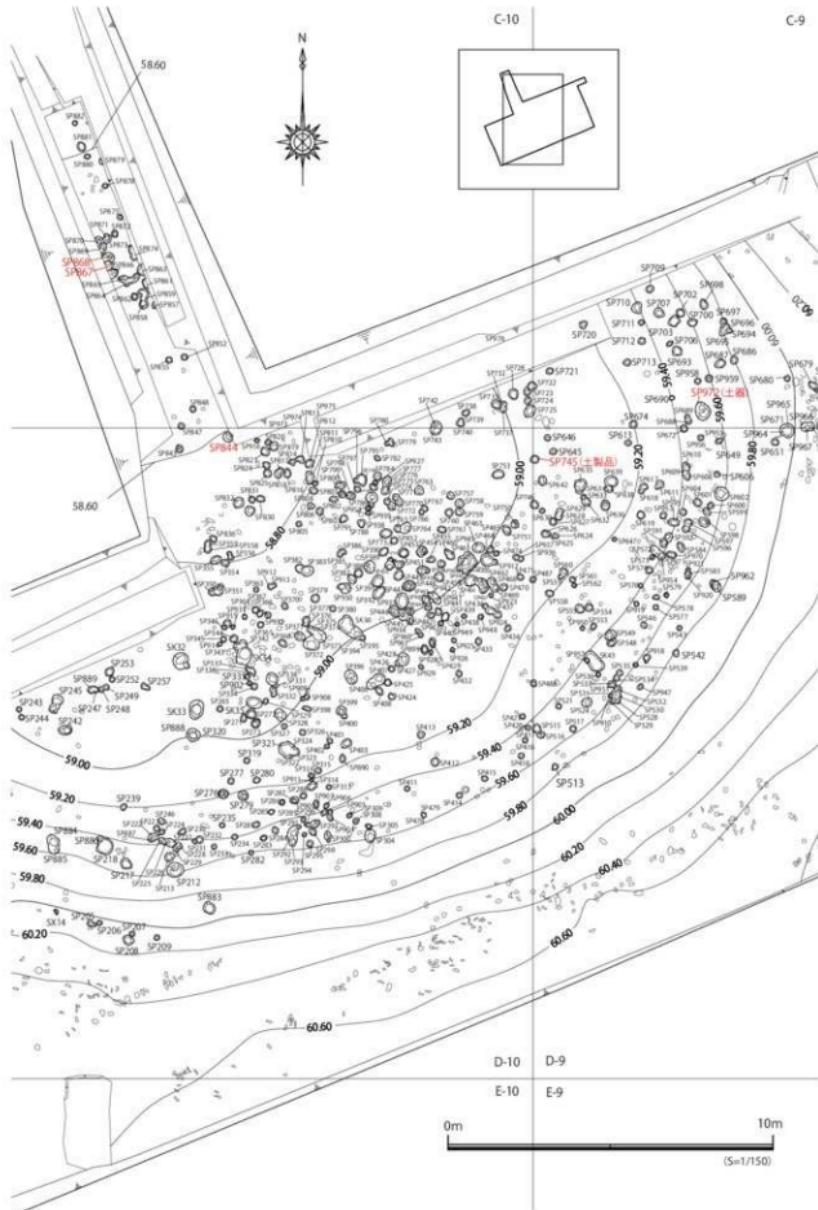
XII 地区 2 地点ピット集中部

XII 地区 2 地点（2 面目）では谷底部分を中心としてピット群が検出された。遺構の密度は高いものの、小さく浅いものや不定形なピットが多く、明確な掘立柱建物跡のプランは認められなかった。ピットからはグスク土器や石器が出土している。まれに縄文時代の土器も出土する。XII 地区の SP972 からグスク土器（第 48 図 25）、SP745 からは土製品（第 48 図 28）が出土している。

以上のように、XI・XII 地区のピット群は、ともに谷地形に堆積したⅢ層以下で検出されたものであるが、XI 地区では谷上部、XII 地区では谷底部にピットが検出されており、地点ごとで土地利用に差異が認められた。



第 44 図 グスク時代の遺構 24 全体図 (XII 地区)



第45図 ゲスク時代の遺構25 全体図（XII地区）拡大



XI地区 1地点(2面目) 遺構完掘状況 北から



XII地区 2地点(2面目) 遺構完掘状況 北から

図版20 グスク時代の遺構 12 (XI・XII地区)



XI 地区 SP400 半裁状況 南から



XI 地区 SP431 半裁状況 南から



XII 地区 SP844 半裁状況 西から



XII 地区 SP867・868 半裁状況 南から



XII 地区 SP745 土器出土状況 東から



同左 拡大



XII 地区 SP972 半裁状況 東から



同左 拡大

図版 21 グスク時代の遺構 13 (XI・XII 地区)

第2項 遺物

グスク時代の遺構や包含層（Ⅲ層）からは、グスク土器を中心に白磁、カムィヤキ、滑石製品など1069点が出土している（第5～8表）。また、近世～近代の遺構からもグスク時代の白磁や青磁などの遺物が出土しており、本節でまとめて報告する。遺物の縮尺は50%を基本とし、大型のものは遺物に合わせて40%と縮小している。遺物の中で、陶磁器の胴部片や小片のものは写真によるものとし、53点を報告する。

以下に、各分類の概要を述べ、個々の所見は第9～10表の観察表にまとめている。

①グスク土器

グスク土器は、鍋形を中心に、羽釜形、壺形、甕形、鉢形、碗形が確認されている。総数755点出土した。

鍋形・羽釜形

煮沸具系の鍋形土器及び羽釜形土器については、口縁部形態及び胎土、器面調整から2大別することができ、かつ出土状況にも差異が認められることから、便宜的にA類とB類に区分した。

A類（1～13・21）

グスク土器の第1段階（具志堅2014）に相当する。滑石製石鍋を模倣した縦耳状の突帯が貼り付けられ（1～5）、滑石を混入（21）や塗布（1・7）した土器もある。口唇部はナデ調整によって平坦となり、ナデ調整や突帯を貼り付ける際に粘土が内側にはみでる個体もある（6）。

A類は掘立柱建物跡9号のSP470（1・2）及びSK83（21）から出土している。このほかはグスク時代の柱穴の埋土（12・13）や土坑の埋土（8・9）若しくは包含層のⅢ層（3～6・10）からの出土であるのに対し、後述するB類がXI地区の包含層からのみ出土することから、両者には出土状況の差異を認めることができる。

B類（14～16・22～24）

グスク土器の第2段階（具志堅2014）に相当する。瘤状・横耳状の突帯（14・15）を持ち、口唇部が丸みを帯び口縁が内湾する土器群。胎土はA類に比べて、やや砂泥質気味の胎土が目立ち、締まりが良くない印象を受ける。

羽釜形土器についても、突帯が簡素化していることや出土状況、胎土の特徴からB類に含めた。グスク時代の遺構埋土中からは出土せず、ほぼ包含層からの出土である。

底部（25～27）は鍋の底部である。

壺形（17）甕形（18）鉢形（19）碗形（20）

壺形（17）はSP147、甕形（18）は掘立柱建物跡5号のSK8出土で、他は包含層からの出土である。口縁部の特徴や胎土、出土状況から、B類に含まれる可能もあるが、包含層からはA類も出土しているため、分類に含めることについては今回保留した。

②土製品（28）

半月状の土製品が、グスク時代の柱穴であるSP745の埋土から出土している。胎土は、グスク土器にのみられる赤色粒を含んだ橙色で泥質。

③カムィヤキ

カムィヤキは24点出土している（29～31・49・50）。中でも、ズケ15-C1 SK4から出土したカムィヤキ（29）は、全体の約4分の1が残り、底部から口縁部まで復元できる。出土資料は口縁部形態や、当

て具痕からいわゆるA群に相当すると考えられる（新里 2003、伊仙町教育委員会 2005）。

④滑石製品

滑石製品は総数7点出土した。グスク時代の遺構からは滑石製石鍋（32・33・35・51）の底部や胴部の破片、棒状の製品（34）が確認されている。出土資料の多くは、グスク時代の柱穴の埋土から出土している。特に（35）は掘立柱建物跡7号のSP382出土、（34）は掘立柱建物跡24号のSP65より出土で、（32）はSP991内よりグスク土器の底部（27）を伴って出土している。

石鍋の破片や棒状製品には、穿孔（32・34）や割取ったような痕跡（35）が確認できることから、池田が指摘するように破片の状態で持ち込まれた（池田 2003）可能性が考えられる。

⑤白磁

グスク時代の白磁は総数21点出土した。殆どが小破片である。グスク時代の遺構からは、大宰府分類IV類の玉縁白磁碗が3点出土している。近世～近代の遺構からもグスク時代の白磁が出土しており、大宰府分類IV類のほかにV類端反碗、VII類柳描文碗、IX類口禿碗、瀬戸哲也氏ほか分類（瀬戸ほか 2007）の皿D'群、碗E群が出土している。

碗IV類（36～42）いわゆる玉縁白磁碗で、14点出土した。（39）は掘立柱建物1号のSP233、（40）は掘立柱建物跡13号のSP1032から出土している。

V類（43）端反碗で、口縁端部で外反する。近世～近代の区画38（X地区）SX34からの出土である。皿D'群（44）は陶器質で胴部下半が露胎となる。近世～近代の区画35（X地区）SD1から出土している。

この他、碗VII類（柳描文碗）、碗IX類（口禿碗）、碗E群が出土しているが、小片のため図化していない。

⑥青磁

青磁は10点出土した。グスク時代の遺構からの出土ではなく、近世～近代の遺構から出土したもののが殆どである。青磁は、瀬戸哲也氏分類（瀬戸ほか 2007、瀬戸 2014）のV類・VI類、幅広高台タイプがある。他に水注、瓶が出土している。

碗VI類（45）は小型化した底部で厚みがある。見込みに釉剥ぎあり。近世～近代区画40（XI地区）SK87からの出土である。

幅広高台タイプ（52）は、深緑色釉が施釉されるもので口縁部片が出土している。道7（XI地区）SD20から出土。

皿V類（46・47）は釉の厚みや外底の釉剥ぎが特徴的なもので、底部片（46・47）が出土している。（46）は、近世～近代の区画46（XII地区）SD20、（47）は、区画36（X地区）SK136からの出土である。

その他 水注は口縁部片（48）、瓶は掘みの部分（53）が出土している。

⑦その他の遺物

その他の遺物として、石材や鉄滓、焼土、炭が出土している。

鉄滓 グスク時代の遺構からは11点出土した。総重量75.2 g。

第5表 ゲスク時代の遺構及び包含層（III・IV層）遺物出土状況（X・XI・XII地区）a

地層	地質	ゲスク生遺										成文土器			不明土器		土器量		
		遺構	地質	石器					貝器			鉄器	銅器	骨器	漆器				
				石刀	石斧	石錐	石鏃	石器	貝器	貝錐	貝鏃								
1号	グラン アシナガ 地盤	SP-140	壁土																
18-01	SP-303	壁土																	
18-01	SP-307	壁土																	
18-01	SP-311	壁土																	
18-01	SP-319	壁土																	
18-01	SP-323	壁土																	
18-01	SP-325	壁土																	
18-01	SP-327	壁土																	
18-01	SP-328	壁土																	
18-01	SP-330	壁土																	
18-01	SP-333	壁土																	
1号	SP-141	壁土																	
14-01	SP-404	壁土																	
14-01	SP-445	壁土																	
14-01	SP-503	壁土																	
14号	SK-012	壁土																	
18-01	SP-304	壁土																	
18-01	SK-008	壁土																	
18-01	SP-314	壁土																	
18-01	SP-317	壁土																	
18-01	SP-324	壁土																	
18-01	SP-332	壁土																	
18-01	SP-337	壁土																	
18-01	SP-342	壁土																	
18-01	SP-363	壁土																	
18-01	SP-389	壁土																	
18-01	SP-391	壁土																	
18-01	SP-703	壁土																	
18-01	SP-730	壁土																	
18-01	SP-736	壁土																	
18-01	SK-043	壁土																	
18-01	SP-419	壁土																	
18-01	SP-1127	壁土																	
18-01	SP-209	壁土																	
18-01	SP-265	壁土																	
18-01	SP-270	壁土																	
18-01	SP-307	壁土																	
18-01	SP-319	壁土																	
18-01	SP-403	壁土																	
18-01	SP-1004	壁土																	
18-01	SP-1030	壁土																	
18-01	SP-1031	壁土																	
18-01	SP-1038	壁土																	
18-01	SP-1040	壁土																	
18-01	SP-1042	壁土																	
18-01	SP-1043	壁土																	
18-01	SP-1047	壁土																	
18-01	SK-011	壁土																	
18-01	SK-012	壁土																	
18-01	SP-1087	壁土																	
18-01	SP-1127	壁土																	
18-01	SP-1128	壁土																	
18-01	SP-1129	壁土																	
18-01	SP-1130	壁土																	
18-01	SP-1131	壁土																	
18-01	SP-1132	壁土																	
18-01	SP-1133	壁土																	
18-01	SP-1134	壁土																	
18-01	SP-1135	壁土																	
18-01	SP-1136	壁土																	
18-01	SP-1137	壁土																	
18-01	SP-1138	壁土																	
18-01	SP-1139	壁土																	
18-01	SP-1140	壁土																	
18-01	SP-1141	壁土																	
18-01	SP-1142	壁土																	
18-01	SP-1143	壁土																	
18-01	SP-1144	壁土																	
18-01	SP-1145	壁土																	
18-01	SP-1146	壁土																	
18-01	SP-1147	壁土																	
18-01	SP-1148	壁土																	
18-01	SP-1149	壁土																	
18-01	SP-1150	壁土																	
18-01	SP-1151	壁土																	
18-01	SP-1152	壁土																	
18-01	SP-1153	壁土																	
18-01	SP-1154	壁土																	
18-01	SP-1155	壁土																	
18-01	SP-1156	壁土																	
18-01	SP-1157	壁土																	
18-01	SP-1158	壁土																	
18-01	SP-1159	壁土																	
18-01	SP-1160	壁土																	
18-01	SP-1161	壁土																	
18-01	SP-1162	壁土																	
18-01	SP-1163	壁土																	
18-01	SP-1164	壁土																	
18-01	SP-1165	壁土																	
18-01	SP-1166	壁土																	
18-01	SP-1167	壁土																	
18-01	SP-1168	壁土																	
18-01	SP-1169	壁土																	
18-01	SP-1170	壁土																	
18-01	SP-1171	壁土																	
18-01	SP-1172	壁土																	
18-01	SP-1173	壁土																	
18-01	SP-1174	壁土																	
18-01	SP-1175	壁土																	
18-01	SP-1176	壁土																	
18-01	SP-1177	壁土																	
18-01	SP-1178	壁土																	
18-01	SP-1179	壁土																	
18-01	SP-1180	壁土																	
18-01	SP-1181	壁土																	
18-01	SP-1182	壁土																	
18-01	SP-1183	壁土																	
18-01	SP-1184	壁土																	
18-01	SP-1185	壁土																	
18-01	SP-1186	壁土																	
18-01	SP-1187	壁土																	
18-01	SP-1188	壁土																	
18-01	SP-1189	壁土																	
18-01	SP-1190	壁土																	
18-01	SP-1191	壁土																	
18-01	SP-1192	壁土																	
18-01	SP-1193	壁土																	
18-01	SP-1194	壁土			</														

第6表 ゲスク時代の遺構及び包含層（III・IV層）遺物出土状況（X・XI・XII地区）b

第7表 グスク時代の遺構及び包含層（III・IV層）遺物出土状況（X・XI・XII地区）

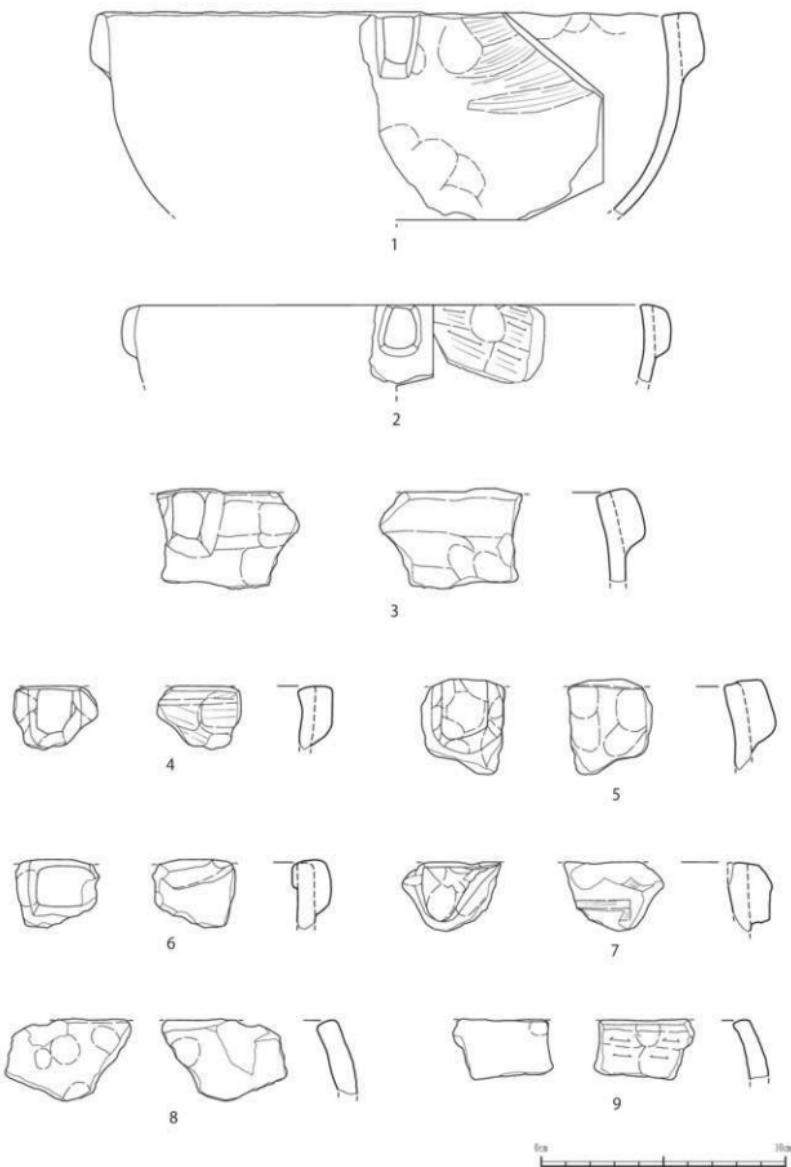
第8表 グスク時代の遺構及び包含層（III・IV層）遺物出土状況（X・XI・XII地区）d

第9表 ゲスク時代 出土遺物観察一覧 a

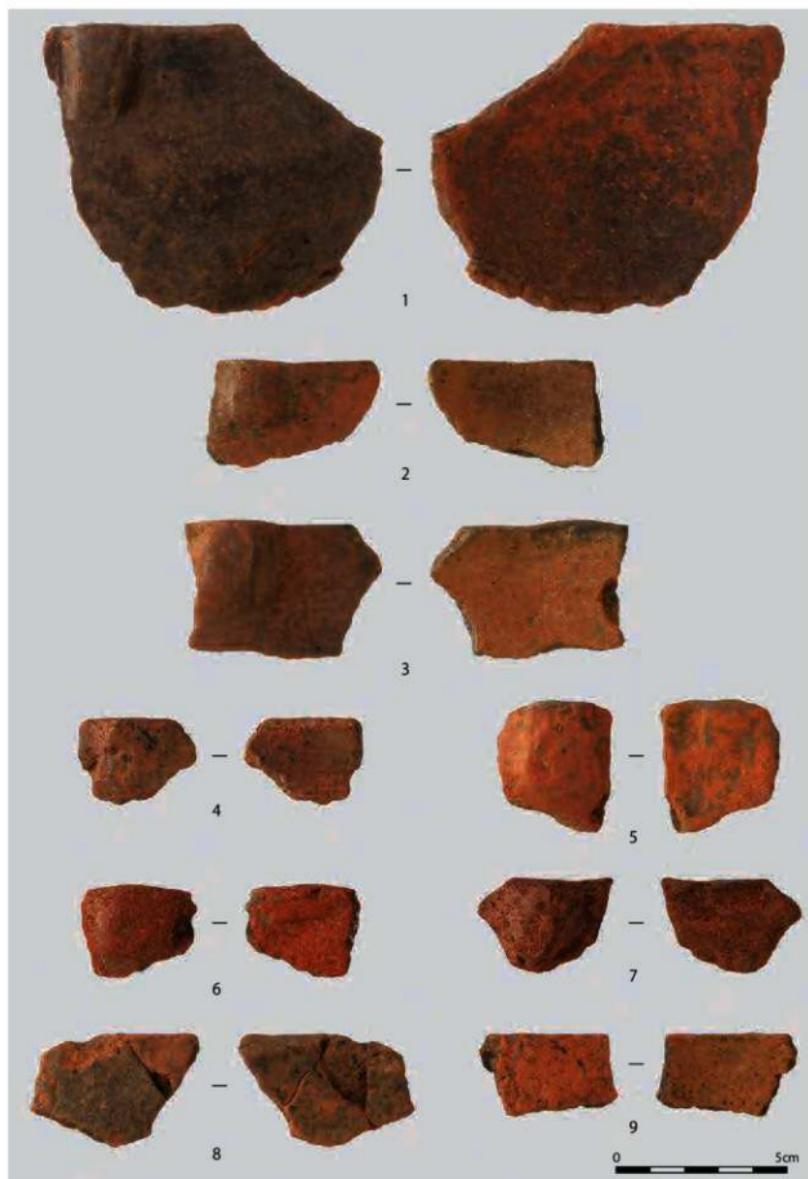
種別番号 西阪番号	種類	器種	分類	部位	法線(cm)			観察事項	地区	山土地	遺構時間
					(上)径 (下)幅	(中)底径 (周)周長	(下)厚さ				
第46回 回数22	1	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	[23.1]	-	A類。口縁部には石刷の底辺の突部が取り付けられ、口縁部は平頂になる。内外面ともナデ調整が施されるが、外曲面はハケメ調整が残る。胎土は、表面に滑石が埋められた砂混質で、外曲面灰→暗褐色。内面灰赤色→暗褐色。	X	SP470 墓上 建物跡9号	ダスク
	2	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	[21.0]	-	A類。口縁部にはやや傾いた石刷の底辺の突部が取り付けられ、口縁部は平頂になる。内外面ともナデ調整が施されるが、内面はハケメ調整が先行して施される。胎土は泥質で、白色粉など微細な粉を含む白色。	X	SP470 墓上 建物跡9号	ダスク
	3	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。口縁部には石刷の底辺の突部が取り付けられ、口縁部は平頂になる。内外面ともナデ調整。胎土は白色粉と白色を含んだ泥質で外曲面灰褐色、内面灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	4	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。口縁部には石刷の底辺の突部が取り付けられ、口縁部は平頂になる。内外面ともナデ調整によって凹凸が目立つ。内面はハケメ調整が施される。胎土は白色粉などを含む泥質で、内外面とも明褐色。	X	Ⅲ層	-
	5	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。石刷の底辺の突部が取り付けられているが、凹凸が目立つ。口縁部はナデ調整が施されるが、突部の底部に凹凸がある。胎土は、白色粉などを含む泥質で、内外面とも明褐色。	X	Ⅲ層	-
	6	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。口縁部には石刷の底辺の突部が取り付けられ、口縁部は平頂になる。胎土は白色粉などを含んだ泥質で、内外面とも明褐色。胎土は黑色。	X	Ⅲ層	-
	7	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。石刷を複数してあるが、口縁部の突部は逆三角形に近い形状を呈する。内外面ともナデ調整が施される。胎土は砂混質で、赤褐色。表面に滑石が埋められている。	X	Ⅲ層	-
	8	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	口縁部は内済し、ナデにより平頂になる。内外面ともナデ調整が施される。胎土は白色粉などを含む泥質で、外曲面灰→暗褐色。胎土は黑色。	X	SK91 墓上	ダスク
	9	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。口縁部は内済し、ナデにより平頂になる。内外面ともナデ調整が施される。胎土は泥質で、白色粉を含み明褐色。	X	SK102 墓上	ダスク
第47回 回数23	10	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。口縁部はナデ調整によって平頂になる。内面はハケメ調整の痕が残るが、内外面ともナデ調整が施される。胎土は白色粉を含んだ泥質で、内曲面赤褐色、外曲面灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	11	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	口縁部はナデによって平面をつくり出す。内外面ともナデ調整が施される。胎土は泥質で赤褐色などの微細な粉を含み明褐色。	X	SP255 墓上	ダスク
	12	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。口縁部はナデによって平面をつくり出す。内外面ともナデ調整が施される。胎土は泥質で、胎土は砂粉を多く含んだ砂混質で、外曲面灰褐色。	X	SP850 墓上	ダスク
	13	ダスク 土器	刷	A類	口縁部	-	-	A類。口縁部はナデによって平面にするが、やや丸みをねじり張り出す。内外面ともナデ調整が施される。胎土は泥質で微細な砂粒を含み稍暗褐色。	X	SP855 墓上	ダスク
	14	ダスク 土器	刷	B類	口縁部	-	-	口縁部は内済し、底辺の突起が取り付けられる。表面はアバタ。内面はハケメのあとナデ調整。外曲面はナデ調整が施される。胎土は、白色粉や赤褐色などを含んだ泥質で、外曲面灰褐色、内曲面灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	15	ダスク 土器	刷	B類	口縁部	-	-	B類。口縁部下に取り付けられた楕円状の突起の一端。内外面ともナデ調整。胎土は、白色粉などを含んだ砂混質で、内外面灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	16	ダスク 土器	刷	B類	口縁部	-	-	B類。口縁部は内済する。内外面ともコビヨサエやナデ調整が施される。胎土は、白色粉や赤褐色などを含んだ泥質で、外曲面灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	17	ダスク 土器	刷	-	口縁部	[11.6]	-	口縁部から瓶頭部にかけて削出し、(瓶頭部分)によつて平頂曲をつくりだす。瓶頭の内側は削出直角が多く残る。胎土は泥質で砂粉を含み白色→赤褐色。	X	SP147 墓上	ダスク
	18	ダスク 土器	刷	-	口縁部	-	-	ナデ調整が施される。胎土は泥質で微細な白色粉などの粉を含み赤褐色。	X	SK83 墓上 建物跡5号	ダスク
第48回 回数24	19	ダスク 土器	刷	ダスク	口縁部	-	-	口縁部はナデによって平頂にするが、やや五瓣形を呈する。胎土は泥質で砂粉を含み赤褐色。	X	Ⅲ層	-
	20	ダスク 土器	刷	-	口縁部	-	-	口縁部はナデによって平頂になる。やや内済に角形状に偏り出す。口縁部はやや内済しながら直線的立ち上る。胎土は泥質な粉を含む泥質灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	21	ダスク 土器	刷	A類	胴部	-	-	内外面にハケメ若しくはケズリの単位が確認できる。胎土は滑石を混入し、泥質で暗褐色。	X	SK83 墓上 建物跡9号	ダスク
	22	ダスク 土器	刷	B類	胴部	-	-	B類。胴部に肉厚の突起を運らす。内外面ともナデ調整が施されるが、指圧痕が残る。胎土は白色粉を含む砂混質で、内外面とも暗褐色。芯は灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	23	ダスク 土器	刷	B類	胴部	-	-	B類。肉厚の突起部分。内外面ともナデ調整が施されているが、指圧痕が剥離しているため、詳細は不明。胎土は細かい砂粉を含んだ砂混質で、内曲面灰褐色、外曲面灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	24	ダスク 土器	刷	B類	胴部	-	-	B類。胴部に肉厚の突起を運らす。内外面ともナデ調整。胎土は細かい砂粉を含む泥質で、内外面とも明褐色→灰褐色。	X	Ⅲ層	-
	25	ダスク 土器	刷	-	底部	-	-	内面に指圧痕やナデ痕がわざかに残るが、表面が全体的にアバタ現のため、外曲面の調整痕は現れないとしない。胎土は砂粉をほとんど含まない泥質で灰褐色。	X	SP972 墓上	ダスク
	26	ダスク 土器	刷	-	底部	-	-	平底。内外面ともナデ調整。胎土は泥質で微細な白色粉を含み稍暗褐色。	X	I層	-
	27	ダスク 土器	刷	-	底部	-	-	平底。内外面ともナデ調整。胎土は泥質で微細な白色粉を含み稍暗褐色。	X	SP991 墓上	ダスク
	28	土製品	-	-	-	3.5	1.8	平底状の土製品。片面は凸だが、反対の面は凹凸が目立つ。侧面は面をなしている。胎土は赤色を含んだ泥質で、褐色。6.3 g	X	SP745 墓上	ダスク

第10表 グスク時代 出土遺物観察一覧 b

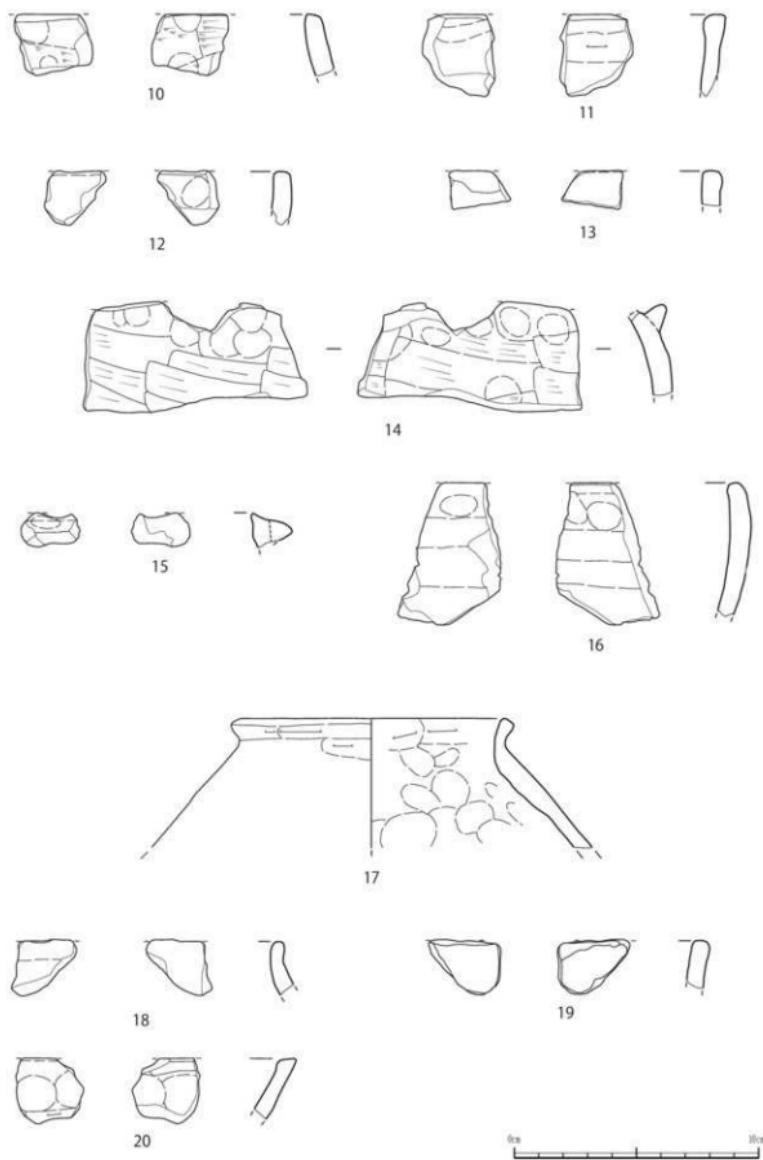
測定番号 回収番号	種類	部種	分類	部位	法線(cm)			觀察事項	地区	出土地	遺構時間	
					上層 (基盤) (基盤) (厚さ)	底層 (基盤) (基盤) (厚さ)	開口					
第49回 回収25	29	カムイヤキ	直	A群	口～底部	10.4	9.6	[17.3]	約1/4が残存。口縁は大きく外に開き外反。口の部分の断面は二角形状を呈する。内部には横状文。内外面ともロクロナデが施されるが、内部に筋子目模のタキシが複数個有る。胎土は白色を含む暗紅色で芯は褐色。	X	SK4 墓土	グスク
	30	カムイヤキ	直	A群	口縁部	—	—	—	口縁は大きく外に開き外反。口の部分の断面は三角形状を呈する。内外面ともロクロナデが施される。胎土は白色を含む暗灰白色で芯は褐色。	X	I層	—
	31	カムイヤキ	直	A群	胴部	—	—	—	外面はナテの痕と波状文が施され、内部は筋子目模のタキシが確認できる。胎土は白色を含む灰白色で芯は褐色。	X	Ⅲ層	—
	32	滑石製品	鏡	—	—	5.8	3.5	1.2	石鏡の側面片。タガキの痕や被熱を受けた跡所、穿孔が施された痕がみられる。重量:35 g	X	SP991 墓土	グスク
	33	滑石製品	鏡	—	—	6.4	4.7	2.1	石鏡の底面片。タガキの痕や被熱を受けた跡所、穿孔が施された痕がみられる。重量:61 g	X	SP805 墓土	グスク
	34	滑石製品	—	—	—	1.6	1	0.8	断面多角形の底状の器皿。研究などによって曲が形成されている。穿孔が施された痕跡がみられることから、二次製品の可能性がある。18g	X	SP65 墓土 建物跡24号	グスク
第50回 回収26	35	滑石製品	鏡	—	—	6.5	5.4	1.5	石鏡の側面で断面にタガキの痕や被熱を受けた跡所がみられる。長軸方向に削られた痕跡がみられることから、鏡片を分割した可能性がある。重量:65g	X	SP382 墓土 建物跡6号	グスク
	36	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	玉縁1.8mm。口縁部の玉縁は断面三角形状に肥厚する。やや黄色みを帯びた灰白色の半透明釉を施す。素地はやや赤みを帯びた白色で緻密。	X	Ⅲ層	—
	37	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	玉縁1.8mm。口縁部は断面三脚状に肥厚する。灰色みを帯びた半透明の釉を施す。素地は黒色の痕を含んだ灰白色。	X	SK182 墓土	近世～近代
	38	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	玉縁1.8mm。口縁部の玉縁は半平な三脚状に肥厚する。やや灰白色みを帯びた透明釉を施す。素地は黒色の粒を含む黄白色を帯びた灰白色。	X	Ⅲ層	—
	39	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	玉縁1.8mm。口縁部の玉縁は断面三脚状に肥厚する。やや黄色みを帯びた灰白色の釉を施す。素地は灰白色で黒色を含み緻密。	X	SP233 墓土 建物跡1号	グスク
	40	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	玉縁1.8mm。口縁部の玉縁は小ぶりで、断面三脚状に肥厚する。やや灰白色みを帯びた透明な白色的釉を施す。素地は灰白色で黒色を含み緻密。	X	SP1032 墓土 建物跡13号	グスク
	41	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	玉縁1.8mm。口縁部は断面三脚状に肥厚する。やや灰白色みを帯びた白色の釉を施す。素地は灰白色で黒色を含み緻密。	X	SK49 墓土 建物跡2号	近世～近代
	42	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	玉縁1.8mm。口縁部の玉縁は小ぶりで断面三脚状に肥厚する。やや灰白色みを帯びた白色の釉を施す。素地は灰白色で黒色を含み緻密。	X	SKC33 墓土	近世～近代
	43	白磁	碗	B群	口縁部	—	—	—	瓶底系。口縁部はゆるやかに錐返り、内面に削痕を造刻する。透明釉を内外面に施す。素地は白色で緻密。	X	SK34 墓土	近世～近代
	44	白磁	皿	D群	底部	—	[4.2]	—	明代。瓶底系。高台の凹路跡で、他は灰白色の釉を施す。内底は薄く輪削ぎを行う。素地は浅黄褐色で緻密。	X	SD1 墓土	近世～近代
回収26	45	青磁	碗	M群	底部	—	5.5	—	VI型。黒の窓の跡を含む透明なオリーブ色の釉を高台内面まで施釉後、内底を輪削ぎ。高台は丸を含む舟持つ。素地は灰色で緻密。	X	SK87 墓土	近世～近代
	46	青磁	皿	V群	底部	—	[6.2]	—	全面に黒の窓の跡を含む丸を含む舟持つ。内底は輪削ぎ。高台は丸を含む舟持つ。素地は灰白色で緻密。	X	SD20 墓土	近世～近代
	47	青磁	皿	V群	底部	—	[5.7]	—	全面に黒の窓の跡を含む厚く輪削ぎ。外底を輪削ぎ。高台は略台形を呈する。素地は黒色粒を含む灰白色で緻密。	X	SK136 墓土	近世～近代
	48	青磁	小注	グスク	口縁部	[8.5]	—	—	明代。15 c. ラップ以降に削った窓から受け皿間に口縁部が立ち上がる。内外面ともくすんだ緑色が厚く施されている。素地はやや橙色みを帯びた灰白色で緻密。	X	I層	—
	49	カムイヤキ	直	A群	胴部	—	—	—	外面にナテ調節の痕。内面に筋子目模のタキシ。胎土は白色粒を含む暗灰白色で芯は褐色。	X	SD11 墓土	近世～近代
	50	カムイヤキ	直	A群	胴部	—	—	—	外面は平行タキシ。内面はへう状の工具によるケツリ。胎土は白色粒を含む灰白色で芯は褐色。	X	SK27 墓土	近世～近代
	51	滑石製品	鏡	—	底部	8.9	3.9	1.3	滑石製石鏡の鏡片。タガキの痕跡がわずかに残る。重量:55.1g	X	SD3 墓土	近世～近代
回収26	52	青磁	碗	輪広高台 タイプ	口縁部	—	—	—	口縁部は丸を帯びる。深緑色の釉が内外面に施釉される。素地は灰白色で緻密。	X	SD20 墓土	近世～近代
	53	青磁	瓶	グスク	瓶身	—	—	—	瓶身の窓のみの瓶片。半透明の緑色釉が施釉され、貫人が入る。素地は白色で緻密。窓の断面径9.0 cm。	X	SK25 墓土	近世～近代



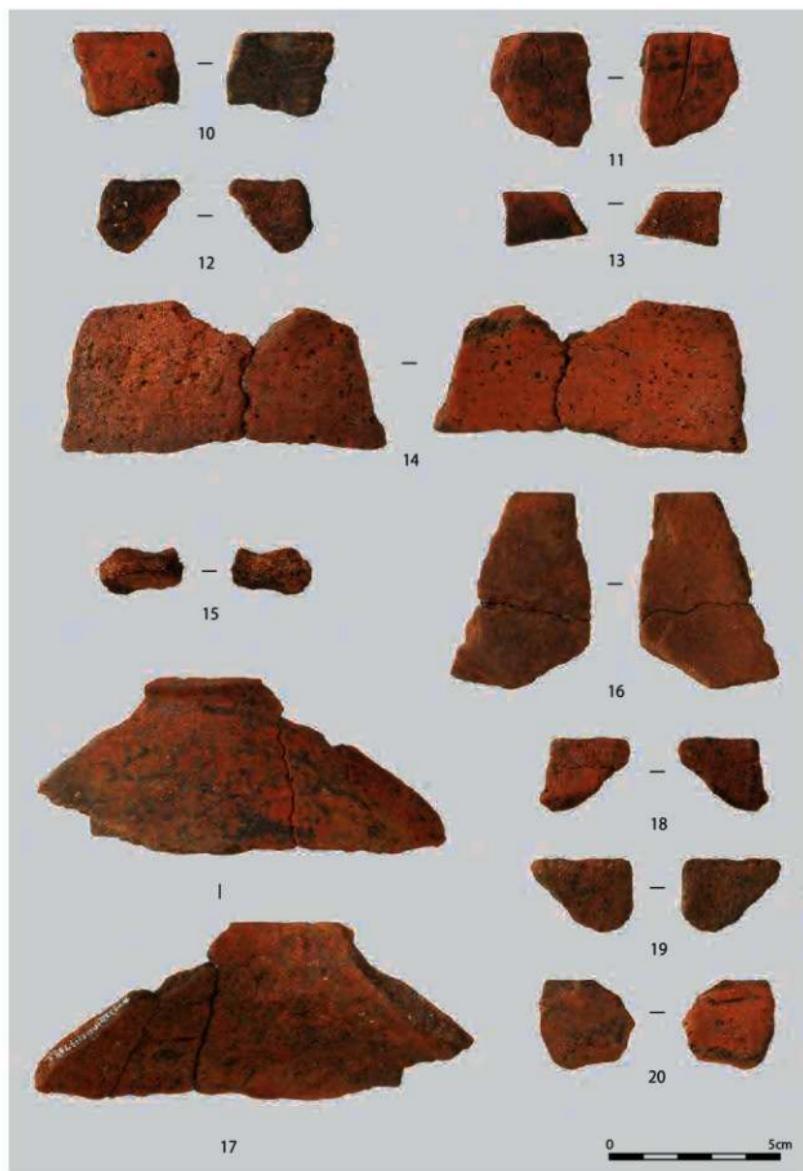
第46図 グスク時代 出土遺物1



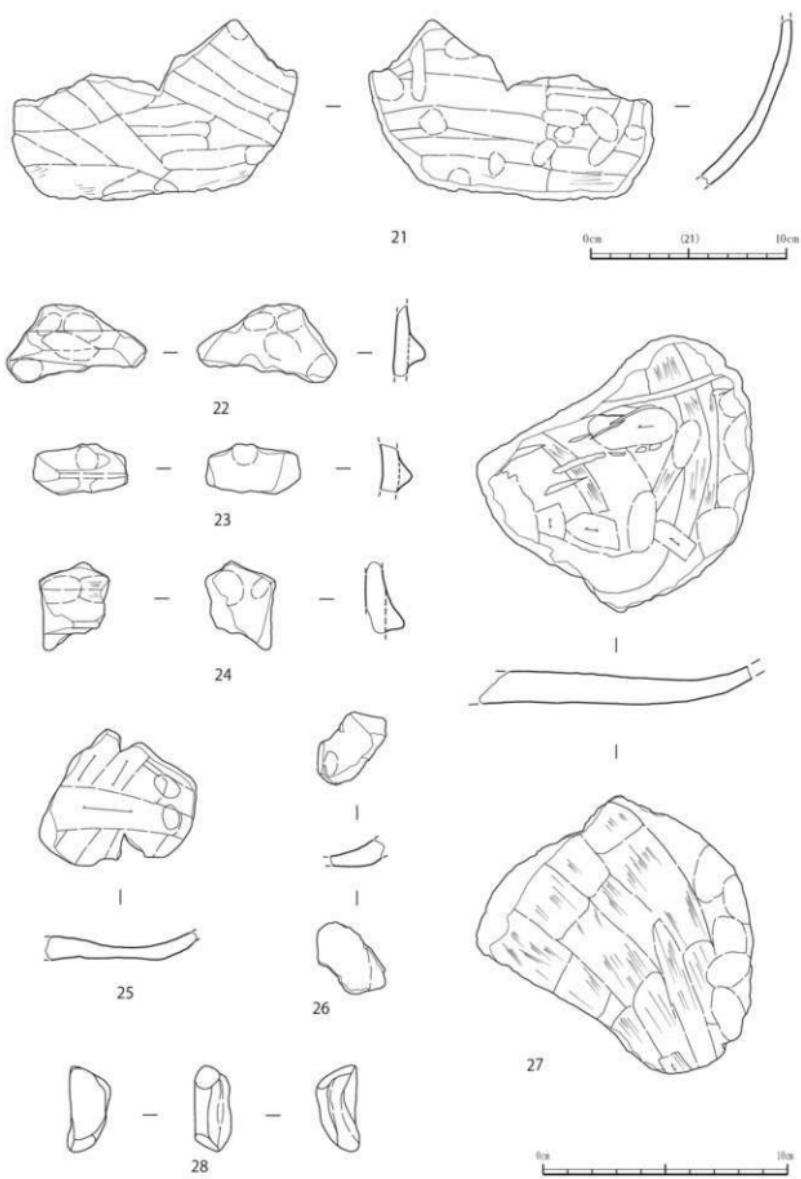
図版 22 グスク時代 出土遺物 1



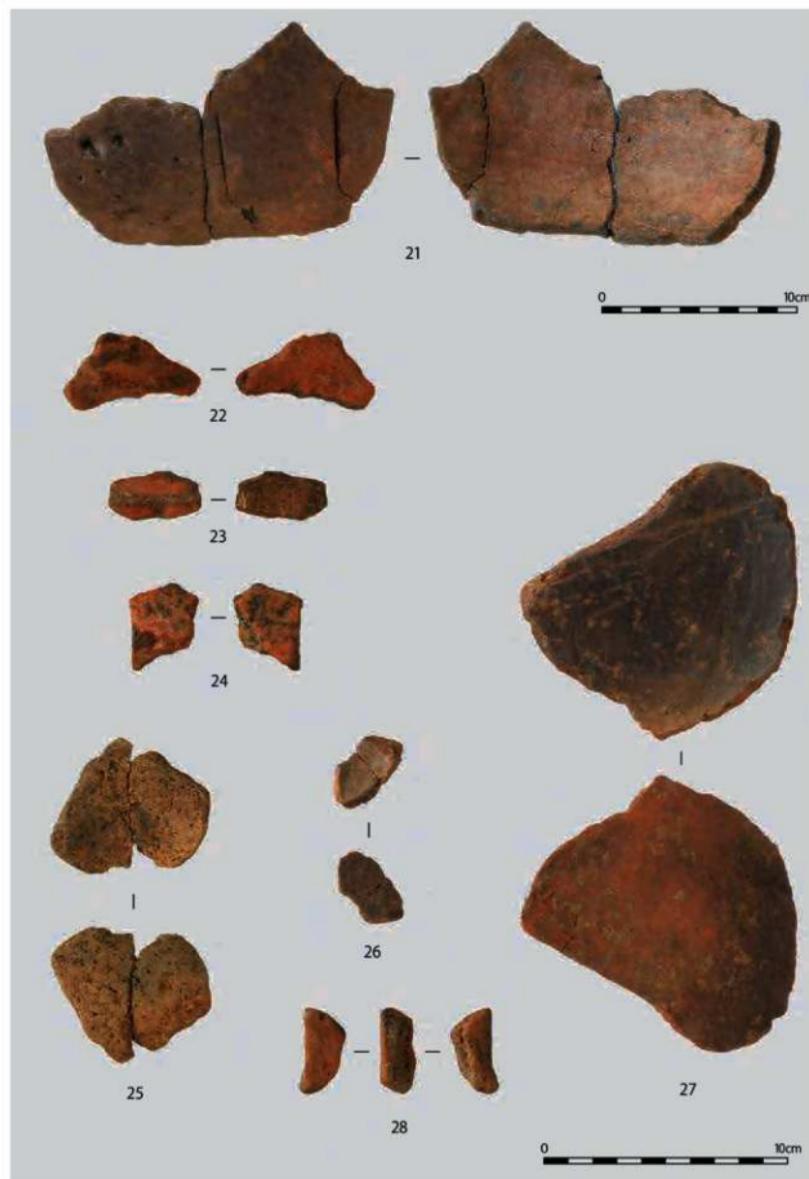
第47図 グスク時代 出土遺物2



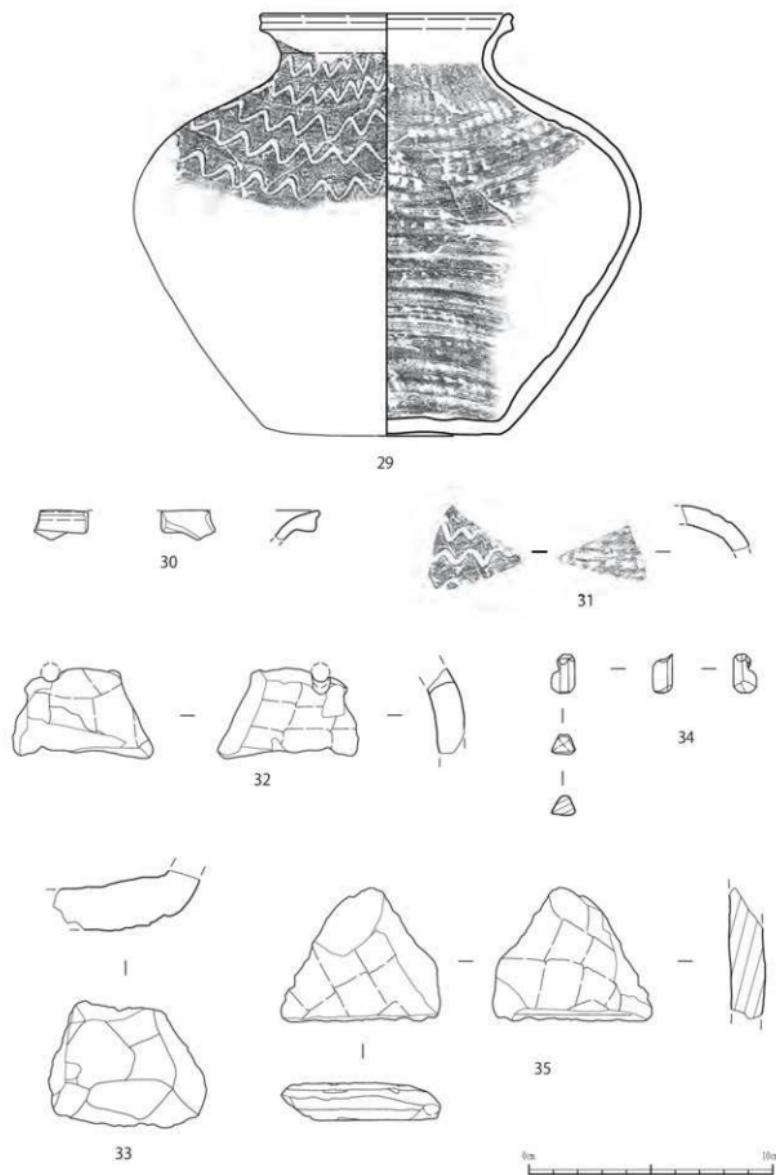
図版 23 グスク時代 出土遺物 2



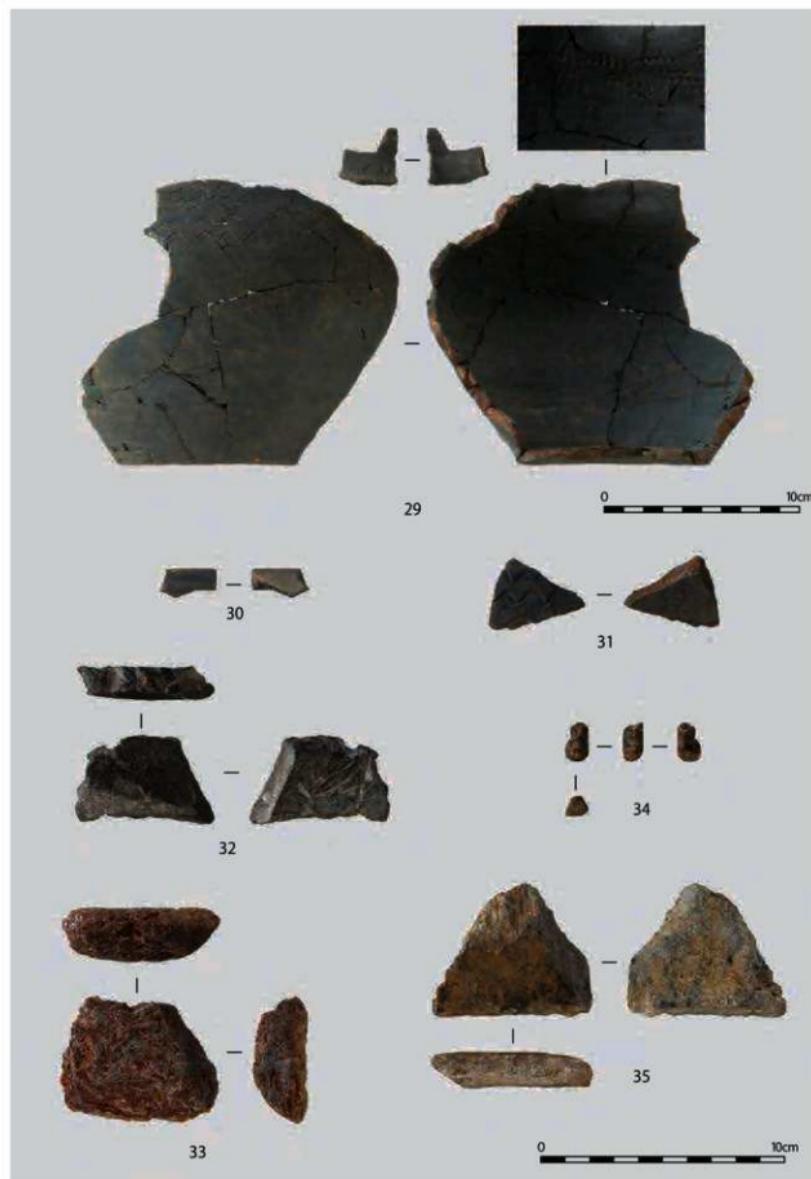
第48図 グスク時代 出土遺物 3



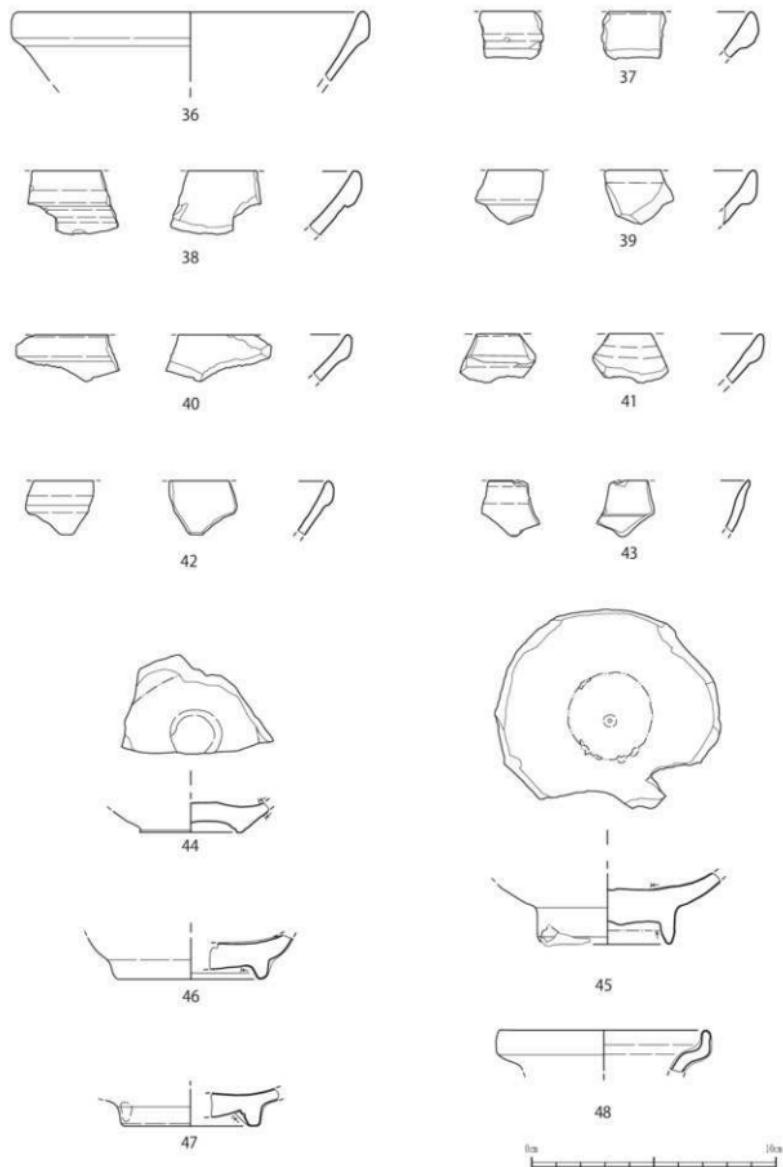
図版 24 グスク時代 出土遺物 3



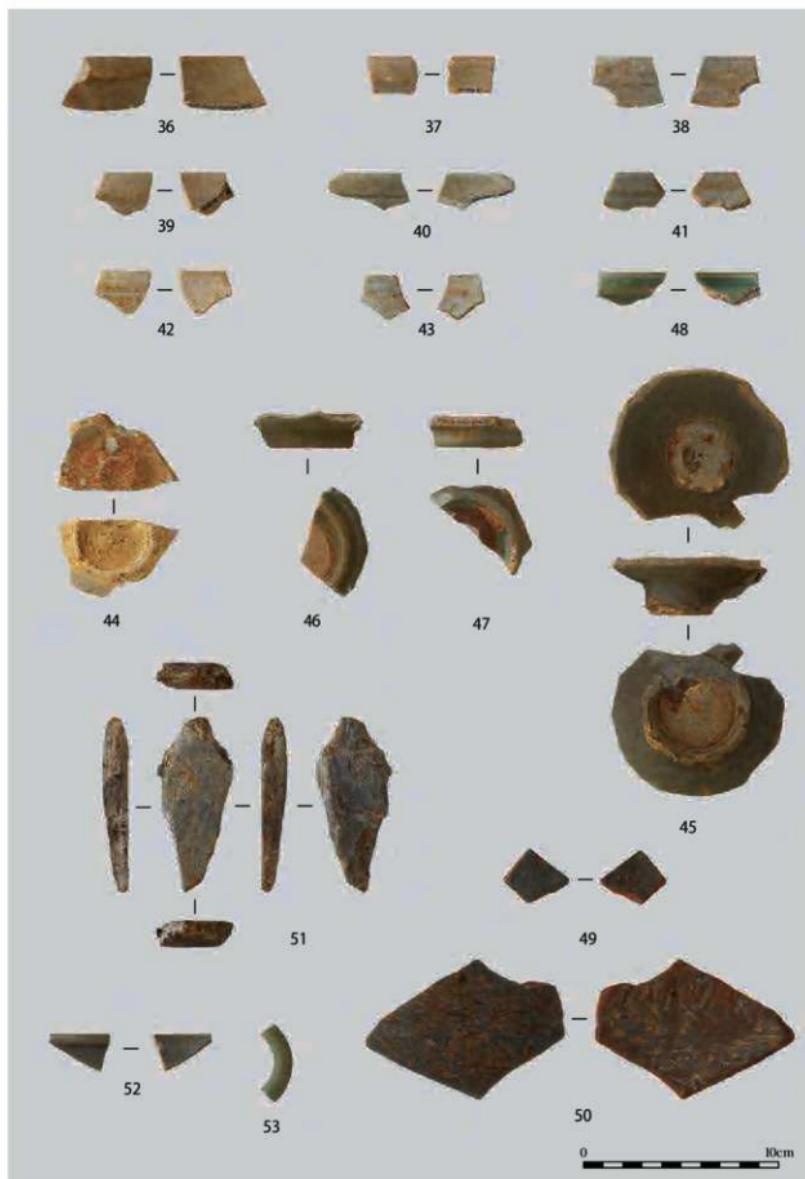
第49図 グスク時代 出土遺物4



図版 25 グスク時代 出土遺物 4



第50図 グスク時代 出土遺物5



図版 26 グスク時代 出土遺物 5